

第 4 回足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 会議録

会議名	第 4 回 足立区文化・読書・スポーツ推進委員会
事務局	地域のちから推進部
開催年月日	令和 8 年 2 月 26 日（木）
開催時間	14 時 01 分～16 時 01 分
開催場所	足立区生涯学習センター 研修室 1
出席者 （敬称略、順 不同）	<p>岩永雅也（放送大学 学長）／西岡龍彦（東京藝術大学 名誉教授）／溝口紀子（日本女子体育大学 教授）／小泉ひろし（区議会議員）／葛西啓之（株式会社いのちとぶんか社 代表取締役社長）／田島のぞみ（区民（公募））／川村みこと（区議会議員）／高祖常子（子育てアドバイザー・キャリアコンサルタント）／長沖竜二（図書館総合展運営委員会 事務局長）／古瀬清美（区民（公募））／伊藤のぶゆき（区議会議員）／木村潤平（パラリンピックトライアスロン選手（一般財団法人 Challenge Active Foundation 代表理事））／田中ひろ子（公益財団法人足立区スポーツ協会 会長）／中村重男（区民（公募））</p> <p>大久保中央図書館長・3 分野連携担当課長／江連地域文化課長・生涯学習支援課長／河合図書館サービスデザイン担当課長／齋藤生涯学習支援課文化・読書・スポーツ連携推進担当／早川地域文化課調整係長／河野中央図書館管理係主任／坪井スポーツ振興課振興係長／佐藤スポーツ振興課振興係主任</p>
欠席者	原田隆史（八洲学園大学 教授）／荻野美恵子（東京都盲人福祉協会 女性部会長）／傍嶋賢（SOBAJIMA STUDIO 代表）／田口幹人（合同会社未来読書研究所 代表）／中野理紗（区民（公募））／栢山猛（株式会社サンバルクスホールディングス スポーツクラブ事業部 事業部長）
会議次第	別紙のとおり
資料	<p>資料 1 アンケート調査結果（概要版）</p> <p>資料 2 新 3 分野計画 体系整理図（文化・読書・スポーツ）</p> <p>参考 1 評価報告書（概要版）</p> <p>施策評価シート（文化・読書・スポーツ）</p> <p>参考 2 これまでの意見と今後の方針（案）</p> <p>参考 3 新 3 分野計画 事業一覧（文化・読書・スポーツ）</p> <p>参考 4 新 3 分野計画 メインテーマ検討資料</p>
その他	傍聴者 0 名

(審議経過)

## 開 会

### ■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

皆さん、こんにちは。お時間になりましたので、ただいまから第4回足立区文化・読書・スポーツ推進委員会を開催させていただきます。本日は年度末のお忙しい中、本会議へご出席を賜り、誠にありがとうございます。

私は、本委員会の事務局を務めさせていただきます、地域のちから推進部3分野連携担当課長の久保でございます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

まず冒頭に、皆様に1点ご報告がございます。文化芸術部会の荻野委員が昨年末、病気療養中のところお亡くなりになられたというご報告を受けております。荻野委員におかれましては、令和7年の2月から本協議会に多大なるご尽力を賜ってきたところでございますが、この度のことに関しまして深く感謝いたしますとともに、謹んで哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

なお、文化芸術部会の後任の委員につきましては、本日の議事の中で改めてご説明をさせていただきます。

続きまして、4点、会議の進め方についてご説明をさせていただきます。

1点目です。本委員会は、足立区文化・読書・スポーツ推進委員会条例第6条第2項に基づき、過半数の委員のご出席により成立いたします。本日は現時点で13名の委員にお越しいただいております。この後、3名の委員の方にお越しいただく予定ですので、現時点でもう既に定足数に達しておりますので、会議が成立していることをご報告させていただきます。

2点目となります。本委員会は条例で公開を原則としておりますので、会議録につきましてはホームページ等で公開させていただきます。なお、会議録を正確に作成するため、皆様のご発言を録音させていただきます。また、記録のため写真撮影をさせていただく場合がございますので、併せてご了承ください。

3点目となります。議事に入りましたら、ご発言の際には最初に委員名をおっしゃっていただくからご発言をお願いいたします。

最後に4点目となります。本日の資料につきましてご案内いたします。本日は、事前に送付した分も含めまして大量の資料があり、誠に申し訳ございません。資料につきましては、次第の表面に記載させていただいております。資料1から参考資料4まで、順次、議事の中でご説明させていただきますので、大変恐縮ですが、順次お手元にご用意いただけますようお願いいたします。また、本日は、閲覧用として各委員のお手元に3分野計画の計画書の冊子もご用意させていただいておりますので、こちらも必要に応じてご参照いただけますと幸いです。なお、計画書の冊子につきましては、お帰りの際には机上にお戻しいただけますよう、併せてお願い申し上げます。

本日は、前回同様、会議時間の半分程度を使ってグループ単位での意見交換を予定させていただきます。前回は、3分野混合でグループを組ませていただいたのですが、本日は分野別のグループ単位での意見交換を予定させていただきます。趣旨といたしましては、これから新しい計画を策定するに当たりまして、各分野ごとにまず意見を出し合ってください。議論を深めていただきたいと思います。

本日は何かを決める会議ということではなくて、新しい計画に向けてアイデア出しといえますか、とにかくたくさん意見を出していただくと、今後の事務局の検討の素材となります。

で、ご協力をよろしく願いいたします。詳細につきましては、後ほど改めてご説明させていただきます。

長くなりまして申し訳ございません。

それでは、ここからは岩永会長に進行をお願いしたいと存じます。岩永会長、どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### ■岩永会長

お久しぶりでございます。岩永でございます。

まず挨拶をせよということですので、どうもこここのところは暖かくなって、ようやく春かなと思ったら、また今日あたりは風が冷たくて、そこの渡り廊下を通るときは本当に寒かったですね。どうしても春先はこういうことになるのかなと思っておりましたが。私も少し鼻風邪を引きまして、お聞き苦しい点があるかもしれません。ご容赦ください。

去年は、この委員会で今私たちが取り組んでおります 3 分野計画の評価、あるいはアンケート調査の表のつくり、どんなアンケートにするかということ、それから今後のこととか、多くの作業にご協力いただきまして、今日はそのご報告があると思えますけれども、改めて感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。特に私は全体会に出るだけで、「あいつはすごく楽をしている」と思われているかもしれませんが、部会ごとに皆さん頑張っていたいて、評価あるいはアンケート調査票の中身の検討をしていただいたのだと思います。どうもありがとうございました。

先ほど図書館長からもありましたけれども、本日の全体会では、アンケート調査結果の報告、それから新 3 分野計画策定における基本方針の説明、それから分野横断の意見交換の 3 つが主なテーマとなっております。時間的には分野横断の意見交換が本日のメインになるかなと思います。先ほどのご案内にもありましたけれども、何かを決めるとか、考え方を一つにまとめるということではなくて、比較的ブレインストーミング的な、いろいろな意見をみんなで言い合って、そこから何か一つでもヒントを得ようという形の会にしたいと思います。

今後は、来年 4 月からの開始を踏まえた新 3 分野計画の策定に向けた議論が中心となってくると思えますけれども、皆さん、引き続きご協力をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

### 1 有識者委員（文化芸術分野）の後任の選任予定について

#### ■岩永会長

それでは、早速次第に沿って事務局から説明をお願いしたいと思います。

まず、次第の項の第 1 番目、有識者委員（文化芸術分野）の後任について、事務局から説明をお願いします。

#### ■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

事務局の大久保でございます。私から、有識者委員の後任の選任予定についてご説明をさせていただきます。

先ほどご報告させていただきましたとおり、今後、荻野委員の後任の委員を事務局にて選定させていただきます予定でございます。こちらの選任が終わりましたら、正式にはこちらの推進委員会の会議の中で委嘱の手続きをさせていただく形になります。めどといたしましては、次回の推進委員会までには事務局のほうで委員の方を選任させていただいて、こちらの会議の中で委嘱をさせ

ていただくということで進めさせていただければと考えております。

なお、後半でもご説明させていただきますが、次回の会議の予定ですけれども、今年の4月下旬から5月中旬頃にかけてをおおむねのめどとさせていただいております。これから日程調整のご相談を皆様にさせていただきますけれども、その会議の中で新しい委員にご参加いただくという形で進めさせていただければと思います。

ご説明は以上となります。

#### ■岩永会長

ありがとうございました。

事務局から有識者委員（文化芸術分野）の後任についてご説明をいただきました。西岡先生の管轄ということで、よろしくお願いいたします。

ここまでで委員の皆様から何かご質問があったら伺いたいと思うのですけれども、ご質問はございませんでしょうか。進め方とか、本日のテーマとか、よろしいですか。——もう言うなりでいいということで、では進めさせていただきます。

本日は、先ほどご案内があったように、議事が盛りだくさんでございますので、質疑応答の時間も限られております。議論し足りない部分があるいは出てくるかもしれませんが、推進委員会の円滑な運営のために、ご協力をお願いいたします。

実は私は今日、大学のほうで会議を一つやってきたのですけれども、「ご意見はありませんか、ご質問はありませんか」と言うと、誰も手を挙げなくて、「聞いているのかな、こいつらは」と思って尋ねているのですけれども、そのうち誰かがふっと手を挙げて何かを言うと、もういいかげんにしろよというぐらい、どんどんどんどん出てくるんですね。なかなか議論というのは面白いなと思いつつながら、今日の午後はどうかなと思いつつながら来ましたが、そのときそのときの勢いみたいなものもあると思いますので、それに期待して、どうぞ活発な議論をお願いしたいと思います。

## 2 これまでの議論の整理について

### (1) 推進委員会評価に対する区の考え方

### (2) これまでの意見と今後の方針

#### ■岩永会長

では、先へ進めさせていただきます。

次第の項の第2番ですけれども、これまでの議論の整理について、こちらも事務局から説明をお願いします。

#### ■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

事務局の大久保でございます。それでは私のほうから、これまでの議論の整理について簡単にご説明をさせていただければと思います。

お手元の参考資料1と参考資料2、青い縁取りのインデックスがついた資料がございますので、そちらをお手元にご用意いただけますでしょうか。こちらの2点につきましては、いずれも今までの議論をまとめさせていただいたものになりますので、何か新しい内容を盛り込んだものではございません。ですので、ポイントだけ簡潔にご説明させていただければと思います。

まず、参考資料1、推進委員会の評価報告書の概要版になります。A3横のものになりますけれども、こちらの内容については前回の全体会の中でも既にお示しした内容になっておりますが、

今年度前半に皆様に行っていただきました令和 6 年度の事業に対する評価をまとめたものになっております。表面の右半分が文化芸術分野の評価になっておりまして、評価の数値については、こちらの記載のとおりとなっております。

こちらの資料の中からは、各部会における主な議論ということで、それぞれ出しているものについて簡単にご説明させていただきたいと思っております。

まず、文化芸術部会における主な議論ということで、1 ページ目の右半分の中段のところですが、3 点挙げさせていただいております。1 点目が、「事業展開の地域的な偏り」ということで、文化芸術が、千住が中心となっているとか、そういったご意見を頂いたところを記載させていただいております。2 点目の「広報・情報発信の強化」と、3 点目の「指標の見直し」については、後ほども触れさせていただきますけれども、実は3分野共通で出されている課題になります。文化・読書・スポーツ、いずれについても広報ですとか情報発信に課題があるということでご意見を頂いておりますのと、3 分野とも今後、指標ですとか指標を取るためのアンケートの見直し、そういったものが課題であるということと挙げていただいておりますので、こちらは 3 分野共通の課題になってくるかと思っております。

なお、指標の見直しにつきましては、これからの事務局のほうで、例えば評価の仕組みとか指標の在り方を引き続き検討させていただいて、来年度の計画策定の会議の後半あたりで案をお示ししたいと思っておりますので、本日のアイデア出しの会議の中では、指標のご意見等というよりは、具体的な施策ですとか事業ですとか、内容の議論を深めていただければと考えております。

裏面の左半分が読書分野となっております。こちらの中段の「読書部会における主な議論」のところでは、「より多様な方法による読書活動の推進」ということで、イベントのターゲット設定ですとか内容の充実といったものを図ってほしいということでご意見を頂いております。②番・③番の「情報発信」と「成果指標」については、先ほどご説明したとおりとなります。

続いて、右半分が運動・スポーツ分野になりますが、①番の「指標の見直し」と③番の「広報・情報発信の強化」については、先ほどご説明したとおりとなります。中段の②番の「実効的な施策・事業展開」については、従来どおりの事業が多いので、少し新しい具体的な対策を盛り込むべきですとか、スクラップ・アンド・ビルドも検討するようにですとか、そういったご意見を頂いているところでございます。

こちらの資料については以上となります。

今回、参考資料として、施策評価シート、こちらの A3 横のシートもつけさせていただいております。こちらは文化・読書・スポーツそれぞれございまして、この内容の中で 1 点今回追加で記載させていただいたのが、一番右下のところの 6 番「推進委員会評価に対する区の考え方」というところがございます。こちらにつきましては、今年度前半の皆様からの評価を踏まえまして、今後の区の方向性を少し記載させていただいた内容になります。お時間の関係がありますので、本日は一つ一つのご説明は省略させていただきますが、この後の分野別の意見交換の中で、ここに実際に記載させていただいた内容も踏まえて、例えば「ここにこう書いてあるのであれば、少し計画の体系をこういうふうにしたほうがいいのか」ですとか、少し議論の素材にいただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

続きまして、参考資料 2 についても少し触れさせていただきます。A4 縦のホチキス留めの資料になりますが、こちらについては、これまでの全体会ですとか各分野の部会の中で皆様から頂いた主な意見をまとめさせていただいております。こちらについても、本日、私からのこの場での

ご説明は省略させていただきますが、後ほどの分野別の議論の中で「以前どういった意見が出ていたかな」となったときに、こちらを参照していただいて、過去の議論を振り返る素材にしていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

私からのご説明は以上となります。

#### ■岩永会長

ありがとうございました。

参考資料 2 を見ると、幾つか私も発言していることが分かるのですがけれども、そんなことを言ったかなという感じもしないではないですね。やはり時間が空くといろいろなことを忘れてしまいますね。

どうもありがとうございました。何かこの件についてご質問等がありますか。

細かい数字が並んでいたり、この表で評価を全体としてどう捉えるかというのは難しいところがありますけれども。ちらっと見たところでは、大体 4 が良い合格点で、3 がようやく合格点だとすると、やはり 4 と 3 ぐらいでいろいろばらつきがあって、4 という評価になっているところは比較的うまくいったんだな、3 のところはもう一歩だったんだなという感じがしますけれども。皆さんもそういう感じで点をつけていただいたのかなと思います。

なかなか日本人は、全部で 5 段階とか 4 段階という枠を提示されても、1 とかはつけづらいのですよね。なかなか 1 とか 2 をつけることはなくて、まあ合格みたいところに集まりがちなのですけれども、アメリカでこういう調査をすると、特に青少年にすると、「全くそう思う」とか、「全くそう思わない」という意見がばんばん出てきて、すごくばらつきがはっきりしてくるので。どうしてこいつらはこんなに信念を持ったように答えられるのだろうと思って感心するのですけれども、日本の高校生に調査をすると大体 3 と 4 のところに集まるという、なかなか国民性があると思います。

では、一応このような評価の結果になったと。文章で事務局のほうでまとめていただいたので、もう一度ご自分の担当されたところを読んでいただいて、こういう話だったな、こういう評価だったなということを復習しておいていただければと思います。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

### 3 アンケート調査結果の中間報告について

#### ■岩永会長

それでは、次第の項の 3 番ですね。アンケート調査結果の報告について、これはちょっと長くなるかもしれませんが、それともあっさりとしてくれるのかな。よろしくお願いいたします。

#### ■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

引き続き事務局の大久保でございます。私のほうから、アンケート調査のここまでの集計結果の概要について簡単にご説明させていただきます。私の説明はなるべく簡潔にさせていただきます。もし学識の先生方のほうで何かお気づきの点等がありましたら補足いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

使用する資料は、資料 1「アンケート調査の結果（概要）」となっているものです。赤いインデックスがついている A3 横のものとなります。

あと、本日は参考資料 4 としてアンケートの集計結果を、表形式で、かなりボリュームがあるので、つけさせていただいているものがありますので、こちらについては後ほどのグ

ループ別の議論の中でご活用いただければと思います。

では、資料1について簡単にご説明させていただきます。

こちらの内容につきましては、今回は調査結果のご報告ということなのですが、調査全体の傾向を満遍なくご説明するというよりは、調査の主立ったところを、ポイントを抜粋して作成させていただいております。その中でもとりわけ、各分野におきましてどのような行動が行われているかに関する質問を抜粋させていただいております。

先に概要だけご説明させていただいてしまいますと、文化・読書・スポーツ、これまでの今回も含めて3回のアンケートで推移を見ますと、文化につきましては、行動がコロナ禍を経てV字回復したという傾向になっております。読書につきましては、あまりコロナ禍の影響を受けず、ずっと横ばいで来ている形になっております。唯一、スポーツだけが若干上昇傾向にあることが、この3回のアンケートを通して見えてきたところでございます。

では、詳しく見ていただければと思います。

まず、1ページ目の左上のところですが、調査の概要をまとめさせていただいております。一応前提として少しお話をさせていただきますと、調査期間は昨年12月、ひと月かけて行わせていただきました。調査対象についてはこちらの表のとおりですが、一番メインとなる調査が表の1番のところになります。16歳以上の一般区民ということで3,000件、紙で資料を配布させていただきました。今回は回収率が約35%、1,044人の方からお答えを頂いた形になります。今回、アンケートのサンプル数を8,000件から3,000件に少し縮小させていただいたのですが、回収率は過去2回とほぼ同じとなっております。過去2回も35%ということで、不思議なことに回収率はほぼ同じという形となっております。

あと、大きなところで言いますと、4番、5番。こちらが子ども向けの調査ということで、小学校5年生と中学校1年生、及びその保護者に、この4番と5番はワンセットの調査になっております。親と子どもがまとめて1つの調査票に回答するという形式になっておりますけれども、1,410件配布しまして、回収率が30%強となっております。こちらについて少し補足をさせていただきますと、過去2回のアンケートは、学校を通じて紙を配って学校で回収という形を取らせていただいたこともありまして、回収率が8割ほどとかなり高い状況でした。今回、アンケートをウェブに切り替えましたところ、回収率がかなり下がってしまったのですが、サンプル数としては子どもと保護者それぞれで450件前後取れたという状況でございます。

なお、こちらには記載がないのですが、少し補足をさせていただきますと、基本的な属性のところでは過去2回と変わってはおりません。主なところでは、性別でいいますと、今回、男性が約45%、女性が52%、無回答がそれ以外という形で、これは過去2回と傾向としては変わっていない形となります。年齢層といたしましては40代・50代が中心となっていて、若い10代・20代の回答が少ないということで、こちらも傾向としては変わっておりません。

最後に、基本属性として、今回、新しい項目として足立区の居住年数を質問させていただいたのですが、一番多かったのが20年以上お住まいの方が6割となっております。次いで10年~20年の方が2割ということで、10年以上住んでいる方だけで8割という状況でございます。こちらはご参考までに、ほかの自治体も少し周辺区を調べてみたのですが、基本的には同じぐらいということで、この辺りの地域は10年以上住んでいる方が多いということが確認できたところでございます。

今、私が口頭で補足させていただいた内容は、参考資料4の中に全部記載されておりますので、

後ほど改めてご確認いただければと思います。

それでは、各項目について少し触れさせていただきます。1 ページの左下のところですが、まずこちらは3分野共通で、各分野への関心と生活満足度の相関ということになりますけれども、一言で言いますと、文化・読書・スポーツのどれかに関心を持っている方のほうが何の関心もない方よりは生活満足度が若干高かったという傾向になっています。ただ、こちらはまだ詳細に統計的な分析をしたわけではありませんので、まだそういった傾向が分かったという状況にとどまっております。

続きまして、右半分が文化芸術になりますけれども、こちらは基本的には過去 2 回とはそれほど大きく傾向は変わっておりません。冒頭に私が申し上げましたが、1 枚目の右下の「鑑賞の有無」というところですが、こちらが令和3年のコロナ禍のときに若干下がってしまったのですが、一番上の令和 7 年では少し回復したというところで、文化芸術はコロナ禍の影響がかなり大きく出ていたことが分かっております。

続きまして、2 ページ目をご覧ください。こちらの左半分が文化になりますけれども、文化の活動に参加したかどうかというところでは、過去 2 回とそれほど大きくは変わっておりません。また、「伝統芸能等の体験」というところでも、コロナ禍のときに若干下がったのですが、今回はまたコロナ前に戻ったというのが主な内容となっております。

2 ページ目の右半分からが読書となっております。こちらについては、先ほど冒頭に申し上げましたように、本を読む区民の方が横ばいといえますか、若干減っている形になります。ただ、こちらの読書部会の原田会長もよくおっしゃっていますが、ここは全国的な傾向ということで、特に足立区固有の傾向ではないということも分かっております。こちらについては、大人の一般区民の左半分のグラフのところ、新しく選択肢として「気になったネット記事を読む」という項目を 1 つ追加したのですけれども、ここが全ての選択肢の中で一番多くなったという状況でございます。「本を読む」とか「新聞を読む」よりもかなり多いという状況が分かっております。

長くなりまして申し訳ありません。3 ページ目をご覧ください。

左上に「図書館の利用目的」とありますが、ここでは「図書館を利用していない」という回答が一番多く出ていました。50 代以上の方ですと 4 割以上が図書館を利用していないことが分かっております。

その下の「学校図書館の利用頻度」というのは、小中学生に尋ねたものになりますが、こちらについては令和 3 年のコロナ禍のときに一度落ち込みましたが、またコロナ禍の前に戻ったということが確認できております。

最後に、スポーツになります。3 ページ目の左下のところになりますが、週に 1 日以上スポーツを実施している割合が約 4 割ということで、こちらは過去 2 回の調査よりも 5 ポイントほど増えている形となっております。

右半分の上のところですが、スポーツを実施しなかった理由については、「時間が取れなかった」という方が最も多くなっている一方で、実施しようと思わなかった方に実施しなかった理由を聞いたところ、「特に理由はない」という傾向も分かっております。

最後に、一番下のところですが、スポーツの実施場所については「自宅周辺」が多いということが分かっております。

以上が主なところになります。今回、あくまでお示ししたものが単純集計の結果ということで、例えばいろいろな項目を組み合わせた詳細な分析ですとか、例えば 3 分野を横断した分析、例え

ば文化に興味のある方はスポーツとか読書にどういう興味があるとか、そういったところの詳細な分析については次回の会議の中で、追加でお示しさせていただきたいと思っております。

長くなりまして申し訳ありません。私からのご説明は以上となります。

■岩永会長

ありがとうございました。大分内容的に豊富な部分を少し駆け足で説明していただきましたけれども、この点について何かご質問がありましたらお願いします。

1つ気がついたことなのですけれども、この横棒グラフの作り方は、いつもこのように作っているということによろしいのですか。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

会長、具体的にはどちらのところを？

■岩永会長

要するに、どれでもいいのですけれども、1枚目の右、文化芸術の。大体、人間の普通の感性で、上が古くて、だんだん下に行くにつれて新しくなっていくのですけれども。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

こちらはおっしゃるとおり、区の通常の資料を作るときも、上から下に新しくなるようになっていますので、ここは修正させていただきます。

■岩永会長

そうですね。途中で「あれ？ これは減ったのだろうか、増えたのだろうか」と分からなくなってしまう。

やはりコロナの影響が強かったということですね。文化芸術は、どこかへ出て、人混みの中で聴かなければいけないとか、そういうことですからね。1人では何とも。読書はそういう点であまり影響を受けていないのですかね、令和3年は。ああ、それでも学校図書館ということになると利用しなくなるか。

それで思ったのですけれども、これはコロナの影響とか、そのほかの、例えば読書だったら電子図書の普及とか、スマホの普及とか、そういったものが条件としてあって、それで変わった部分が結構あるというのが、「気になったネット記事を読む」のあたりに出てくると思うのですね。

もう一つ重要な観点は、足立区で行った3分野事業の影響を知りたいなと思っているのですね。そういう、もっとすごい影響の下で多分霞んでしまっていて、できれば、3分野を数年にわたって頑張ってきたので、「これだけ増えましたよ」ということが言えると面白かったなと思うのですけれども。せつかく時系列で比較しているのですね。

そこは見えてこなかったということでもいいですか。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

今回、そういったことが分析できるような設問を入れ込んでいなかったというところと、まだ現時点でそういった分析はできていないというところになります。

■岩永会長

分かりました。ありがとうございました。

それからもう一つ、一般区民で「気になったネット記事を読む」が入っていて、小中学生が入っていないというのはどういうことですか。小中学生は読まない？

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

小中学生にも「気になったネット記事を読んだ」というのが入ってしまっていて、こちらの中段に

なっています。

■岩永会長

ありました。下のほうにあった。ありがとうございます。すみません、見落としていました。

この下が空白になっているのは、それを聞いていなかったということですね。令和 7 年だけを聞いていたと。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

おっしゃるとおりです。

■岩永会長

2 割ぐらいですかね。

先生、何か気になったところはありますか。

■西岡副会長

1 つは、回収率なのですけれども、これを見て先生のご意見を伺いたいなと思いました。年齢別とかそういうことで、大体これぐらいの回収率なのでしょうか。回収率と結果に対する関係みたいなことでお考えを。

■岩永会長

分かりました。やる調査によって随分幅があつて、最近 30%を超えるとなかなか良い調査ということになってしまって、私が大学で教わった頃は 30%ぐらいの調査で偉そうなことを言うなど怒られていたのですけれども、今はもう 50%を超えるような調査は、こういう一般のアンケート調査ではまずないですね。本当に大変な時代になったなと思います。

それで、最近増えているのはモニター調査で、最初からモニターとして登録してある人たちに、年齢とか性別とか職業とかでスクリーニングをかけて、それでその会社に「何票欲しい」と依頼すると、その人たちのアドレスをくれて、そのアドレスに調査票を回すとほぼ 100%。なぜ 100%かという、モニターになるというのは、そこから 1 票答えるごとに報酬が来ますので。最近はすごく安いからいいのですけれども、そういうインセンティブがあるからやると。

■西岡副会長

テレビの視聴率みたいな

■岩永会長

そうなんです。もう決まっています。そういう単純なものだといいいのですけれども、こういう少し複雑な内容を聞くということになると、規定のモニターにだけ聞いていいのかというのが今度は必ず出てきて、今、本当にこういう調査は難しいなと。

結論から言うと、30%を超えているというのは、16 歳以上の障がい者個人は 1 票も来なかったのですけれども、全体としてはなかなかしっかりした調査ではないかなと思います。

■西岡副会長

すみません、もう 1 点よろしいですか。

事務局に伺いたいのですけれども、同じような調査を、ほかの区であるとか、あるいは東京都のデータがあると、足立区との比較みたいなことができるのではないかと思います。それはまだ出てこないですか。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

ご指摘のとおりかと思えます。過去の調査の際には、東京都ですとか参考になりそうなものは比較対象として挙げさせていただいておりましたが、まだその比較の資料にはなっておりませ

るので、次回そういったところも比較できるような形でお示したいと思っております。

■西岡副会長

ありがとうございます。

ちょっと気になっていたのは「鑑賞の有無」みたいなところですね。右ページですけれども、これが平成 30 年で 50%を超えている状態で、令和 7 年に V 字回復なのですけれども、46%ぐらいですよ。ほかの区の結果とか、あるいは東京都の結果みたいなところで、どうも 50%ぐらいが鑑賞する人の精いっぱい値であるということであるならば、広報みたいなことだけでパーセンテージを上げるよりも、例えば内容についてもう少し別の考え方をしていくみたいな、次の考え方にも影響するかなと思いました。どうもありがとうございました。

■岩永会長

ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

■溝口副会長

スポーツ部会の溝口でございます。

スポーツのところなのですけれども、思ったよりよかったなと思ったのは、3 ページの、スポーツを実施した人の週に 1 日以上実施している割合が増えてきているということですよ。今まで、令和 3 年は 72%で、平成 31 年は 68.0%で、コロナの影響で減るといふか、逆に 1 人でやらなければいけないと思う人たちが増えたのかは分からないですけれども、それよりもコロナを超えたといふか、コロナ期を超えて増えているといふのは、足立区の取組の成果があるのではないかなと私は思いました。ほかのところは今もう横ばいといふか、あまり増えていなかったりする。逆にコロナで運動しようといふ 1 人の運動が増えて、格差が生まれている傾向があったのですけれども、これは足立区の施策のパークで筋トレが、運動とかターゲットを絞って、ほかの地区とかでは見られないやり方が功を奏しているのかなと私は思いました。

その後の実施場所のところも、自宅周辺にターゲットを置いているといふのも、公園で、パークでやるところとか、ここは本当に実を得ているなという実感があります。

そのほかの分野で見ると、今、私は指定管理者でこういった生涯学習館みたいのところをやっていて、スポーツもあれなのですけれども、鑑賞は本当に難しいなと。先ほど西岡先生がおっしゃっていた、どんなものを見るのか、鑑賞するのかは、「音楽」だったりと書いてあるのですけれども、音楽でも分野があったりとか、演劇だったりとか、それは結構、社会学で言うと地域の人の階層というあたりの提供の仕方といふか、東京なのでわざわざ見に行くといふ、演じている項目によって見に行くといふ人もいるとは思いますが、地方なんかだと興行をどうやって打つかといふので、オーケストラとかをやると全然来なかったり、むしろカラオケ大会じゃないですけれども、そういう身近な演目のほうが来たり、落語とかはあまり来なかったり、若手の芸人のほうが来たりとか、なかなかその辺が、演劇といふところ、足立区の階層、今の足立区はいろいろな新しい層が入ってきたりする中で、なかなか文化鑑賞といふところのターゲットをつかむのがすごく複雑化しているのではないかなといふのは、アンケートの報告を受けながら思いました。

雑駁ですけれども、以上です。

■岩永会長

どうもありがとうございました。

今の溝口先生のご指摘にかぶってしまうかもしれませんが、10年近く時系列的に調査をしていると、項目の意味が変わってきているということがあるのですね。例えば、さっきスマホの話をしましたけれども、文化だとすると、直接行くというのとテレビで見るというものに加えて、スマホで見る、それからコンピューターで見るというのが入ってくると、それを区別してもしようがないんじゃないかなという感じもしてきて、何が何でもみんなと一緒に集まって劇場に行ってみてくださいとか、落語を直接聴きに行ってくださいというのもちょっと時代遅れかなという感じがしますので、その辺のところの指標の取り方とかアンケートの取り方も、これから考えていったほうがいいかなと。連続性は確かに欠けるところがあるのですけれども、でもやはり時代とか技術水準の状況に合わせて聞いていかなければいけないという気はしました。

どうでしょうか。大学の講義だと、目が合った人に指すのですけれども。今、長沖さんと目が合ったような気が。

#### ■長沖委員

読書部会の長沖です。今、スポーツ部会のほうがちょっとプラスになっていて、すごく泣きそうな気持ちになっているのですけれども。

タイムエコノミーの話も、ここでも2~3回出ていると思いますけれども、結局、読書に使っている時間か、スポーツに使っている時間か、文化に使っている時間を同時にやっているのは二宮金次郎ぐらいで、あとは別々なのです。何かをやっていたら何かは抜けている感じがあるので、それが見えると、今日のこの後の個別の議論で何をしようかなというのがすごく今思っているところであると同時に、前回、お互いをどうかぶせて両方を高めていくかという話もしたので、そのための材料として、いろいろ思うところがあります。少なくともこの数字を見たときには、負けた気持ちがしています。

#### ■岩永会長

ありがとうございます。いろいろな機会が3分野で提供されると、人間の使える時間は限られていますので、その使える時間を取り合いという形になってきて、読書が取るか、文化が取るか、スポーツが取るかと。二宮金次郎はその上、仕事もしていますからね。すごいですよね。

では、いろいろな示唆があると思いますけれども、それぞれの分野ごとにこれをご覧になって、考えていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

では、先へ進めさせていただきます。ありがとうございます。

## 4 新3分野計画策定における基本方針について

#### ■岩永会長

続いて、次第の項の4番、新3分野計画策定における基本方針について、こちらも大久保さんのほうからお願いします。

#### ■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

では、私のほうから、新計画策定の方針についてご説明させていただきます。お手元に資料2をご用意ください。赤いインデックスが貼ってあるものになりますが、2-1、2-2、2-3とありまして、それぞれ文化・読書・スポーツとなっております。資料のつくりは3分野とも同じとなっておりますが、内容がそれぞれの内容になっているところがございます。

まず、こちらの資料の見方について、共通になりますのでご説明させていただきます。今回、新しい計画の方向性ということで、今の計画と同じ体系として、「目指す将来の姿」と「課題」

と「施策の柱」という計画の骨組みになるような部分だけを、事務局のほうでたたき台として今回お示しさせていただいております。ただ、これはあくまで事務局の解釈として、これまでの皆様の議論ですとかアンケートの集計結果を踏まえてひとまず仮置きしたのになりますので、本日はあくまで皆様の検討素材ということでご理解いただければと思います。こちらをきっかけとして本日は様々なご意見を頂ければと思っております。

資料の左側が「足立区基本計画」となっておりますけれども、足立区のほうで新しい基本計画、自治体でつくる最上位の計画になりますけれども、令和7年4月から新しい計画がスタートしまして、「やりたいことが叶うまち」をメインテーマに据えて、7つの理念が決まっております。こちらの7つの理念と文化・読書・スポーツの計画が、方向性がずれていないようにということで、まずはこの7つの理念と各計画の目指す将来の姿がきちんとつながっているかというのを赤・青・緑の矢印でつながせていただいている形になります。結論から申し上げますと、足立区の基本計画と大きくずれていないことが確認できましたので、こちらを踏まえて進めていければと考えております。

その上で、文化についてまずは個別に見させていただきますけれども、恐れ入ります、文化の計画、こちらの緑色のものがお手元にあるかと思いますが、こちらの4ページ・5ページをお開きいただいてもよろしいでしょうか。こちらが計画のあらましとなっております、今回お示しした計画の骨組みの部分が4ページに該当しております。この見開きの4ページ・5ページの見方ですが、左から右にどんどん細かくなっていく形になりまして、左側に3分野の共通理念が入っていて、その隣に「目指す将来の姿」「課題」「施策の柱」となっておりますが、本日は新しい計画のここまでをお示ししている形になります。

今回、資料2-1でございますけれども、現行の4ページ・5ページ、計画の見開きのところから変わったところをご説明させていただきますと、「目指す将来の姿」のところは大きくは変えておりません。これは3分野共通になります。「目指す将来の姿」の一番上のところに、例えば「ウェルビーイング」ですとか、真ん中のところに「やりたいことが叶う」ですとか、こういった新しい基本計画のフレーズを入れさせていただいたというところで、それ以外のところは大きく変えておりません。

ただ、「目指す将来の姿」の一番下のところが、以前は「文化芸術に親しみ、共に楽しむ中で人々の活動や交流が生まれる」ということで書いていたのですが、ここを少し変えさせていただいて、「地域の伝統や文化財」というフレーズを入れさせていただいています。事務局の考えといたしましては、今後、新しい計画の中で少しここに力を入れていきたいというところで、ここを「目指す将来の姿」として少し入れさせていただいている形になります。

各分野の課題につきましては、「目指す将来の姿」からひもづいていて、大きくは変わっていないのですが、以前は課題が4つありました。4ページのところで、課題④のところに「プラットフォームづくりが十分でない」というものがありましたけれども、ここについては課題として一つ挙げるといよりは、全体に関わる課題であろうということで、課題④は落として、課題①②③それぞれに課題④が加わっているという理解で、ここは少し整理をさせていただいている形になります。

「施策の柱」についても、現行の計画とはそれほど大きくは変えていない形となっております。

続きまして、読書の資料2-2になります。申し訳ありません、読書については、今度は読書計画の同じく4ページ・5ページをお開きいただきながらご覧いただいてもよろしいでしょうか。

読書計画については、資料 2-2 のほうでは、「目指す将来の姿」は計画書から変えておりません。

「各分野の課題」のところですが、ここを少し整理させていただきました。現行の計画では、計画書 4 ページにありますとおり、課題を①～⑦ということで細かく分けていたのですが、少し整理して3つにまとめさせていただいております。1つ目の課題といたしましては、年齢に関係なく、全体として読書の機会をもう少し充実させる必要があるということでまとめております。2番としましては、「図書館を利用する区民が少ない」というフレーズを明確に入れさせていただきまして、少し図書館の魅力を向上させるというところを課題にさせていただいております。課題の3番目は、大きくは変わっていないのですが、新しく「本を介して人と人がつながる仕組み」というフレーズを入れさせていただいております。これについては、今、足立区の図書館のほうで、図書館に来ていただくだけではなくて、街の中でいろいろと本に触れ合ってもらえる仕組みを作ろうということで動いておりますので、そのあたりも踏まえて入れていただいております。

「施策の柱」のところですが、柱1のところは「だれもが」ということで、ここはもともと「子ども」を明確なターゲットに入れていたのですが、部会の中で大人向けの事業も充実させてほしいというご意見を多数頂きましたので、「だれもが」ということで少しターゲットを広げさせていただいております。柱2については、居心地のよい魅力ある図書館づくりということで、明確に図書館の見直しをするということを入れさせていただいております。柱3については、変更はございません。

読書については以上となります。

最後に、資料 2-3、スポーツになります。こちら、恐れ入ります、スポーツ計画の4ページ・5ページを開いていただきながらご説明させていただければと思います。

こちらにつきましては、「目指す将来の姿」は読書計画と同様、大きく変えておりません。もともと「目指す将来の姿」は、すぐ変わってしまうというよりは、ある程度不変的に目指すものということで、計画を当初つくったときに設定したものという性格でもありますので、大きく変えていないところでございます。

続いて、「各分野の課題」のところですが、スポーツのほうも課題のところは大きく変えさせていただいております。計画書の4ページを見ていただきたいのですが、もともと課題のところは、端的にスポーツ実施率が低いとかスポーツ実施率が下がっているということを課題に挙げさせていただいたのですが、新しい計画の案としましては、もう少し具体的に要因を書かせていただいております。こちらについては、アンケートの結果も踏まえてということになります。課題の1番のところは、関心のある区民は多いけれども行動をしている区民は少ないということで、そのあたりを入れさせていただいております。課題の2番目のところは、年齢を重ねるとか、例えば子育ての時期になるとか、そういったところで実施率が下がる傾向も見えておりますので、ライフステージが変わってもその機会を充実させていくという趣旨で、こちらを課題とさせていただいております。3番目の課題のところは、今、スポーツのほうで一つ力を入れているのがパラスポーツ、障がい者スポーツに力を入れていまして、「だれもが」というところを明確に分かるように、そこを課題として書かせていただいております。

「施策の柱」については、大きく変えてはいないのですが、各分野の課題のところの文章を少し直した形になっておりますので、それに合わせて少し文言を整理させていただいている形とな

っております。

ご説明が長くなりまして申し訳ありません。こちらについては以上となりますが、本日、後ほどの個別の意見交換の中では、主にこちらの方向性がこれで合っているかとか、追加する要素がないかとか、そういった視点でご意見を頂ければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

#### ■岩永会長

ありがとうございました。事務局から新 3 分野計画策定における基本方針についてご説明いただきました。次から次へと情報が入ってくるので、なかなかついていくのが大変ですけれども。若い頃はもうちょっと対応できたのですけれども、紙がいっぱいあって、資料と参考資料とかがあると、バタバタして「どれだろう、どれだろう」というのが、あたふたしてしまうのは年のせいか、ちょっと恥ずかしかったです。

ここまでで、特に新 3 分野計画策定の基本方針ということで、委員の皆様からご質問・ご意見がありましたらお願いします。

よく考えられていると思うのですけれども、みんな美しい概念というか、良いことが書いてあるので、こういう柱ではいけないんじゃないのかとか、なかなか言えないものがありますよね。「人とのつながりの形成」とか、「居心地のよい魅力のある」とか。これを全部反意語にするとおかしな具合になってしまうので、居心地の悪い魅力のない図書館づくりというのはありえない。そういうこと言うと身も蓋もないのですけれども。

要は、魅力とは何なのだろうというのを考えていかなければいけないということだと思のですよね。良いとか、魅力あるとか、すばらしいとか、そういうものが、では具体的にはどんなものなのかというところを検討していかなければいけないと思うのですけれども。

いかがでしょうか。——よろしいでしょうか。

では、自由な議論になってから、もし何かありましたらお願いします。ありがとうございました。

ここまで事務局からの説明を中心に議事を進行してまいりましたけれども、これより、ここまでの内容を踏まえた上でグループ単位の意見交換に移りたいと思います。

## 5 新 3 分野計画策定に向けた意見交換について

#### ■岩永会長

それでは、次第の 5 番になりますが、「新 3 分野計画策定に向けた意見交換について」ということで、こちらまずは事務局からご説明をお願いします。

#### ■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

では、ここからはグループ別の意見交換ということで、分野ごとに意見交換をしていただければと思います。

進め方について簡単にご説明させていただきます。お手元ですけれども、資料番号等はないのですが、こちらの A4 縦のもので「「グループ形式（分野別）での意見交換」の進め方」という資料がございます。こちらに沿ってご説明をさせていただきます。

まず、今回の意見交換の目的は、冒頭から申し上げておりますとおり、何かを決めるというわけではなくて、とにかくたくさんの方のアイデアですとか意見を出していただければと思います。新計画の策定に向けて、先ほど会長からも例示がありましたが、例えば「施策の柱」にはこのよう

に書いてあるけれども、具体的にはこういったものを盛り込んだほうがいいのではないかとか、そういった形でご意見を様々出していただければと思います。

それに当たりましては、本日の会議の中でご説明させていただきました、例えば資料 2 の計画の体系図ですとか、アンケートの集計結果ですとか、これまでの過去の会議の中でのご意見ですとか、そういったものを踏まえて様々なご意見を出していただければと思います。

ただ、全く何もなくフリーでのご意見というのも出しづらいかと思しますので、一応 2 番の「主なテーマ」というところで論点を少し例示させていただいております。必ずしもこれに沿ったご意見でなくても結構なのですけれども、例えば 1 つ目として、体系図を踏まえてご意見いただくとか、2 番目としてアンケート調査、3 番目として、本日詳細な説明は省略させていただきましたが、A3 横の施策評価シートを踏まえてのご意見というところで、事務局のほうで、この①番・②番・③番でご意見を出していただいた場合には、色分けの付箋で書かせていただいて、最後にホワイトボードに貼って意見を整理させていただくような手法で進めさせていただければと思います。皆様のほうで書いていただく必要はありませんので、とにかくたくさん意見を出していただければと思います。それ以外の意見については、その他の意見ということでまとめさせていただきます。

最後に、「意見交換の進め方」ということで、スケジュールですが、今私がお話ししているのが一番上の全体説明のところになります。申し訳ありません、今 5 分ほど押してしまっております。意見交換のところを 3 時からのスタートということで進めさせていただいて、全体を 5 分押しで、最終的には 3 時 55 分には終了できるような形で、なるべく多くのご意見を出していただけるように、時間は予定どおり確保させていただきたいと思しますので、よろしく願いいたします。

各分野の進行は、1 人ずつ事務局のスタッフが入ってやらさせていただきますので、会長・副会長におかれましては、進行の補助をしていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

何かご不明な点がありましたら、ご質問いただければと思います。——大丈夫そうでしょうか。

そうしましたら、会長・副会長におかれましては、テーブルのご移動をよろしくお願いいたします。事務局も各テーブルについていただいて、そこからスタートさせていただければと思いますので、よろしくお願い致します。

## (1) グループ単位での意見交換

### 【A グループ】

#### ■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

よろしくお願い致します。

先ほど大久保館長からご説明があったような形で、ざっくばらんに話していただきながらですけれども、整理していくのがあるので、この①②③のどれに当てはまる話なのかというのを最初に冒頭で言っていただいてからご発言いただくと整理しやすくありがたいです。よろしくお願い致します。

#### ■長沖委員

先ほどの岩永先生のお言葉を受けながら、①番の体系についてです。

第 1 回か 2 回のときに言ったのですけれども、3 つの部会を見て違うのは、読書のところだけ

「自己肯定感」という字がないのですよ。それで、先生は先ほど「上げ上げな言葉じゃないと、ここは載せられないのですか」と言ったのですけれども、実際に読書のいいところは、適度な自己否定感を与えてくれるということによって、やりたいことに近づけるのです。上げ上げで行き過ぎると絶対に成長は止まるので、そういう言葉を本当は入れたいのだけれどもな、みたいなことがちょっとあります。

それで、やりたいことが叶うということをしたときに、地道さとか、多面的に知識を得るみたいな気持ちが読書の特徴ではあると思うので、「目指す将来の姿」にそれがそのような言葉で入れればいいなと。「自己否定感」はさすがに入れられないと思うので。というのをまず思いました。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

ありがとうございます。「自己肯定感」的な言葉を読書のほうにも入れていきたいと。「自己否定感」を入れたいけれども、表現は前向きに「自己否定感」を入れたいということですね。

■長沖委員

ええ。「将来の姿」の3番目が結構それに近いことが書いてあるのだろうなとは思うのですけれども。

■岩永会長

3番目というのは、このところ？

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

この「将来の姿」の3つ目のところということですかね。

■岩永会長

僕は真ん中に入れたらいいかなと思ったのですけれどもね。「自分自身の考えをより具体的に形成していく力が高まり、自己肯定感も——」、何だろうな。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

2か3か、どちらに入れていたほうがしっくり来るかしらというところでしょうか。

■岩永会長

まず、上が楽しむんだね。気軽に楽しむ。それで、下は人とつながっていくと。

やはり真ん中じゃないかな。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

さっきの「よい」とか「魅力的」の中にそういう適度な自己否定感が含まれていくようなということでしょうか。

■岩永会長

長沖さんが言ったように、読書は基本的に受け身の行動だから、それで自己肯定感が高まるというのは……。

■川村委員

確かに、自己否定感もおっしゃるとおりだと思うのですけれども、下げる言葉はあれだということ考えると、自分自身を見つめ直すとか、そういう視点なのかなと。ちょっとポジティブに否定感を入れるみたいな感じだと、そういう表現なのかなと思いました。

■岩永会長

自分自身の考えを具体的に形成する前に、「自分自身を見つめ直し」と。なるほどね。

■川村委員

それで「考えをより具体的に形成していく」みたいな感じなのかなと。一回向き合って、それ

でつくっていくみたいなの。

■岩永会長

どうしても読書は内向的になるよね。

■川村委員

そうですね。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

自分を見つめ直すという表現だと、2番のところですね。

■岩永会長

そうだね。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

ありがとうございます。

■古瀬委員

アンケートの結果から比べてみると、スポーツのほうは割とシニアの方、60代からの方が、「自宅周辺」あるいは「その他の場所」に行っている方がすごく多くて、私も今、家のすぐ近くのルネサンスというジムに行っているのですけれども、本当に60代以上の女性にすごく人気で、びっちりジムに行っている、もうその方たちが生き生きとしてグループをつくって、毎日のように行っていっちゃるのだなというのが分かるぐらいなのですけれども、片や図書館のアンケートを見ると、やはり「図書館を利用していない」がシニア系、50代から60代、70代の、それで図書館は私もいろいろ全国も見て歩いたのですけれども、足立区の図書館の傾向は、高齢者ではなくて男性が多いのですよね。新聞や雑誌を読んでいるような男性が多くて、アクティブシニア系の女性は図書館ではなくてジムに行って、おしゃべりをしてグループをつくる。男性はジムの教室に入りづらくて、マシンをやっている男性はいても、大体朝一に図書館で待って新聞を読むとか、指定席があるみたいなのところがあって、そこを何となく象徴しているなというのがアンケート調査の結果です。

それからもう1つ、資料2-2の足立区の読書推進計画の「施策の柱」に目を向けると、柱2で「居心地のよい魅力ある図書館づくり」というのがあって、さっき岩永先生も「居心地のよい」とか「魅力」という、すごくほわっとした言葉なのですけれども、図書館とスポーツとか文化との違いは、先ほどの意見もありましたけれども、本当に無料で、自分が1人で行ってサードプレースになれるというところが、ほかの文化芸術とかスポーツというのは自分ももっと何か一歩を持っていないと行きづらいけれども、図書館なら、いつ、誰でも、どんなときにでも行ける。その図書館が足立区に幾つもあるのに、行ってみると閑散としていたり、その「居心地のよい」というところはこの場で少し掘り下げたいなと思って。

私が思う居心地のよさは、例えば閲覧席の工夫。閲覧席が、みんなで隣になって座るのではなくて、好きな椅子があって、座りやすい雰囲気があって、今日はテラスで読もうかなとか、自分のお気に入りの椅子を引っ張ってきて座って読めるとか、そこに何時間いても雰囲気がいい、ちょっとお茶を飲めたり、自分で持ってきたお茶が飲めたり、あと、少し雑談ができるとか、そういう柔らかい雰囲気というか、図書館にそういうものを。全国を見るとそういう図書館のほうが、本屋さんでも今はコーヒーが飲めたり、書店も変わっていますよね。だから、そういう今どきの図書館に足立区も変わっていかないと、ここの中央図書館をよく歩くのですけれども、やはり堅い。そして静か。静かに歩いて静かに本を取らないといけないような雰囲気にどうしても私は感

じてしまうのです。だから、居心地のよい魅力ある図書館づくり、ハードが先かソフトが先か、人の気持ちが変わっていくことも大事なのですけれども、まずはそういう、「昔の図書館と違っていたんだ」というふうに区民の方たちに気づいて知ってもらうことが、これからの新しいステージとしては必要なのかなと感じます。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

ありがとうございます。

■長沖委員

我々代表として言っているいいですか。確かに、女子がジムに行っていて、おじさんは新聞を読んでいる感じというのはすごくよく分かるのですよ。それで、ほかの区立とか市立とか、地方へ行ってもそうですけれども、もうちょっと明るいところは概してこういう雰囲気がないのですよ。つまり、おっさんがいなくて、代わりにお姉様方がいると明るくなるという状態もあって、ではこの状態はおっさんを排除すればいいのかみたいなふうにも見えていて、現実にはすごく人が入っている「おにクル」という図書館が大阪の茨木市にあるのですけれども、そこは子育て支援施設をベースにしているから、めっちゃ明るい代わりに、おじさんがこうやって新聞を読んでいると「は？」という雰囲気が何となく漂っていて、実際に来る人は少ないのですよ、子育て支援施設だから。というふうになっていて、なかなか私にとっては痛苦的な問題だなと。

■岩永会長

茨木市というのは、大阪の？

■長沖委員

大阪のほうです。それで、図書館は図書館であるのですけれども、そこも図書館に仕立ててみたら、やはり来る人が今はこんな感じで、「椅子、いいわね」という感じの人が来るから、すごく明るい雰囲気になっているのだけれども、結果としておじさんは端っこのほうにいるみたいな。

■高祖委員

でも、古瀬さんがおっしゃったように、例えば北欧とかだと椅子が選べたりとか、ソファみたいなものがあったりとか、少しくローズではないのですけれども、隅っこに入って読めるだったりとか、やはり場所が選べるというのは一ついいのかなと。それだったらおじさんも居心地がいいところを選んでいられるのではないかなと思うのです。

あとは、読書というところと少しつながってしまうのかもしれないのですけれども、結構話題のことに對して語りた人もいると思うのです。なので、話題になった本とかについて語るイベントみたいな、「みんな何でも言っていていいよ」みたいな感じで、タイミングをキャッチしてそういう場をつくると、人がつながるといふところにもなってくるかなと思います。

あともう1つ、文化のほうで「伝統や文化財に」という言葉が入っていたのですけれども、読書のほうも、やはり足立区は、千利休だったり松尾芭蕉だったり、そういう伝統的なものもすごくしっかり根づいているというか、でも何となくうっすら知っているのだけれどもちゃんと知らないということもあるので、やはりそこを図書館として仕掛けて見せていくというか、興味を持ってもらって、図書を通して「足立区って何か面白いね」とか「すごいね」とか、「この街道がそうなんだ」とか、そういう再発見につなげてもらえるような仕掛けもできたらいいのではないかなと。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

相乗り企画ですね。

■高祖委員

はい。

■岩永会長

でも、松尾芭蕉はそこから出発しただけだから。ここに住んでいたわけではないから。しかも、本当に出発したのはどこかという争いになっているらしい。春日部のほうじゃないかとかね。

■長沖委員

高祖さんがおっしゃったように、相乗りのときに、そもそもこの土地が何を持っているかと言うと、アンケートで面白かったのは、文化で有意に上がっているのが、「地域の祭事や年中行事に参加した」という人がぐっと上がっているのです。だから、俳句を読み始めたこととは別ジャンルで伸びている部分で、確かに SNS が出るようになってから、どこの祭りも異常に過熱して、西大寺で人が死にましたみたいな、そんな話なのです。若い人が戻ってきて「やいやい」とやっちゃったりする傾向というのは確かにあるので、そこに我々も乗っかれればというか、そういう伝統の資料とかはそういうところに使えると思うので、文化に乗り入れるとしたら祭事とかはいけるかなという感じはしました。

■岩永会長

でも、その辺になってくると、文化とスポーツと読書というのは、読書はちょっと違うかな、でも、境がはっきりしなくなるんだよね。あのお祭りに参加するというのは、文化なのかスポーツなのかよく分からなくて。まあ、読みながらやっている人はいないから読書ではないと思うけれども。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

でも、お祭りの歴史を踏まえた上で参加するというと、読書も出番が。

■岩永会長

だから、まず最初の3分野というのは、1つずつ競争しながら伸ばしていくというコンセプトでよかったと思うのだけれども、これからは統合というか、一緒に伸ばしていく。絶対に読書をやった人は、その内容がスポーツだったらスポーツのほうに行きますし、いいと思いますけれどもね。

あとは、図書館にみんなが来てくれるかどうかというのを指標にしていると、みんなを図書館に集めるということになるのだけれども、さっきも言ったように、電子図書とか、漫画なんかもみんなこれで読むようになってしまうという、紙離れがすごいと、わざわざ行かないという人も多くなって、必ずしも紙で読むことだけが読書ではないという感じにはなっていますよね。だから、そうなると、さっき言われたように、本を読みに行くところというよりも、ただ集まっている話とか、それから本の中においてシャワーを浴びるとか、そんな場になると面白い。それから、小さい子どもと一緒にいっても、図書館だったら放牧しておいても安全ですからね。その間お母さん同士で話すとか。

それで、おじさんの問題は難しいですよ。生物学的に、女性は、集団はみんなお友達ですけども、男にとって集団はみんなライバルですから、仲よくしようとあまり思わないのですよね。「構わないでくれ。俺は俺のやり方で」と。若い頃はそんなことはあまり思わなかったのだけれども、年を取ってみるとそうなっているのですね。挨拶をして一緒に何かやりましょうという感じにはならないですね。そういう年配の男性の気持ちも尊重してほしい。そういう場所もいいですよ。静かに。

## ■長沖委員

アンケートは総じて、子どものアンケートと親を見たり、さっきコロナの話もありましたけれども、結局継続していないからという話の一つあります。ということ前置きに、岩永先生がおっしゃったことの解決もしたいという、何か誘われるときは多分、古瀬さんのジムの話もそうだと思いますけれども、「絶対にはまるから」という誘われ方をしませんか。つまり、一回行ったらすごく楽しいからではなくて、「絶対に何々さんだったら、はまると思うんだよ」と言われるのですよ。はまるというのは、継続だとか、本当にどーんと没入してしまうことなので、どちらかという、本 1 冊がいいというより、雑誌とかを勧めるみたいなほうが。そこに行ったらそこにしか雑誌がないとか、例えば僕はラーメン屋に行くときには『ゴルゴ 13』を読みに行っているだけの話なので、あれも雑誌みたいなものですよ。それで、やるのだったら1冊ではなくて、しかも雑誌は書店が少なくなってきたので、「そこにしかありませんよ」みたいな話だったらそこに来られるし、雑誌が間にあるとおじさんとでもちょっと話せたりするのですよ。僕は自転車とかいろいろやったりするのですけれども、大概その雑誌を媒介としたような話で、趣味の話だったら何となく一緒にいられる可能性が出てきて、というのを今思ったので。あまり雑誌推しの話が図書館の中で出ているかは分からないですけれども。

## ■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

あまり聞かないですね。

## ■長沖委員

その雑誌しか置いていない机ゾーンみたいな。そうするとそこにおじさんが集まってくるから。

## ■岩永会長

でも、どこでもありますね。週刊誌を差してあったり、月刊誌を差してあったりするコーナーが。

## ■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

どちらかという、おじさんたちが奪い合ってけんかになることのほうが多いような。新聞もそうなのですが、でも、新聞と週刊誌をおじさんが取り合うというのは全国的に図書館で起きるのですが、でも、さっきおっしゃったように、いきなりイベントにとか、いきなり本の交流にというふうに 1 人でいたいおじさんを誘っても、この距離が広過ぎるから、おじさんがいつも読んでいる新聞の延長上にある雑誌というものでいくと、おじさんを一步こちら側に自然な形で、おじさんがつらくない形でという、そういうことですかね。

## ■岩永会長

こういう場で言うのはあまりふさわしくないかもしれないけれども、昔、家を造るときに一番気を遣ったのは、自分で部分的に設計したんだけど、狭いトイレは嫌だなと。トイレは広くなければいけない。なぜ広くなければいけないかというと、本棚を作りたいから。トイレの本棚というのが私は好きで、ただただ狭い箱の中でこうやって座っているのは考えただけでもぞっとする。あそこで何か文庫本の 1 章分を読むとか、旅行雑誌を見るとか、そういう場として。

それはそういう本を読むから、では今度は図書館へ行ってとはならないのですよね。トイレと図書館は全然違うから。内向的なんだよね。

## ■高祖委員

でも、図書館の中でも、新しいところで、コーナーというか、子どものキャビンみたいになっているところをつくって、その隅っこで読むみたいなのはあるかなと思うので。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

隅っこで落ち着く席。

■高祖委員

あと、足立区は、赤ちゃんが産まれると、絵本を届けるサービスをしているじゃないですか。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

「はじめてえほん」のサービスですね。

■高祖委員

だから、うちの孫のところに来てくれているみたいなのですけれども、それを通して今度は、おはなし会というか、読み聞かせ会をやりますよとか、単に渡すだけではなくて、近くの図書館にいざなうとか、そういうつなぐ役割というの、せつかく行くので声をかけたりとか、そういうふうにしたほうがいいのではないかなと思いますけれども。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

「おはなし会で渡された本で読み聞かせがあるよ」というと、ほかの本の読み聞かせよりもいいのではないかとということですか。

■高祖委員

そこまで関連しなくてもいいですけれども、子連れだと図書館は、一応児童書コーナーはありますけれども、なかなか子連れで図書館へ行ったらうるさいかなとか、気になるじゃないですか。でも、絵本の読み聞かせのイベントがありますよという、そういうのがやっているんだということを知らなかったりするということもあると思うので。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

今も一応、絵本をお渡しするときに、区内の図書館一覧とか、「『あかちゃんタイム』という子どもが騒いでも大丈夫な時間は何時からです」みたいな情報のもと一緒にお渡しはしているのですけれども、多分そこまで細かく見ていなかったり、「そうは言ってもね」という気後れがまだまだお母さんたちの中にあったりということが実際に起きているのだらうと思うので、そのあたりをもっと、お母さんたちの心にかかったブロックをどうほぐしていけるかみたいな。

■高祖委員

渡されるだけだと、本当に子育てでバタバタしている中で見ないので、やはり一言、「そういう読み聞かせをやっていますよ」とか「来てください」とか「私、いますよ」とか、そういう声かけとかがあると、またそこからつながっていったりするかなと。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

ありがとうございます。「はじめてえほん」をきっかけに。

■岩永会長

そういう意味で言うと、先ほどのご意見もそうですけれども、図書館はもうこれからは黙って本を読む場所ではなくて、しゃべる場所、ちゃんと声にして何かを言う、人の話を聞く。

一度、足立区ではない別のところの図書館で絵本の読み聞かせをやっている人がいたので、それをしばらく見学させてもらったのですけれども、あれは自分で聞いていても楽しいですね。おじさんでも楽しいというのが。「次は何を読んでくれるのかな」と。紙芝居みたいで面白かったです。

ただ、子どもたちの中に座るのはちょっと抵抗がありますね。「このおじさん、何をしているんだろう」と。

■高祖委員

後ろのほうで。

■岩永会長

後ろのほうで見ているという。

図書館のコンセプトが違ってきたね。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

そうですね。

■岩永会長

静かに読みたい人はトイレでもいいし、別のところに行けば。図書館はちょっと違うんだよね。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

おっしゃるとおりだと思います。そこをもっと伝えていくのかどうかという、その伝え方が足りないよというところなのですよ。

■古瀬委員

やはりいきなり図書館に行くというのは、場所を知っていて、いろいろなことを自分で、かなり意欲の高い人なので、今足立区がやろうとしている、いろいろな街の中に先ほどの雑誌とか、ちょこっと本があったり、それを区の施設でもそうですし、民間の例えば病院の待合とか、ジムにも長くいる人はそこでお昼を食べるような場所があるのですね。そういうところに区の雑誌を何冊か、もう廃棄してもいいようなものを配っていますよね。そういうものを置いてみるとか、何かステップステップ、ちょっと身近なところに本とか雑誌とか、お料理の本でも旅行の本でも、もう一回「本に触れるっていいな」と思うきっかけをいろいろな街の中に仕掛けておくというのがいいのではないかなと。

足立区さんには小さな地域学習センターが14か所ありますよね。私は興本というところにサークルで通っているのですが、そのフロアにも本があるのですが、そうではない2階のところにもちょこっと本があったり、ちょこっと何か、いろいろなところで手に取れるようになっているのですね。それで、出入口にこの間は、1人2冊まで、期限が終わった本・雑誌を持って帰っていいですよというのが置いてあって、リサイクルの。だから、そういうものが入り口に置いてあったりすると、何となく印象が良くなって、次に「あそこに図書館があるから行ってみようか」とか、いろいろな講座、そこは老若男女が来る地域センターなので、学習センターのそういう取組もすごくいいなと思ったので、何か技を、その第一歩が図書館ではなくてもいいのではないかなと思っています。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

スモールステップで、じわりじわりと近づけていくみたいなの。

■古瀬委員

そうそう。じわりじわり、いろいろなイベントを、信用金庫さんに置いてもらうとか、あと、去年から足立区の電子図書館に参加してみたのですが、多分ターゲットが若いお母さんとお子さんということで始めたとおっしゃっていたので。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

最初はそうですね。

■古瀬委員

やはり自分で今入って、私が小説を借りようとする、本当にすごく、ある意味とがったとい

うか、若い人たちが好きそうな本の新刊しかなくて、それもたまには、電子図書というのは借りていつの間にか返されているので、2冊なので、たまに借りるのですけれども、そこはやはりもう少し本のジャンルを広げていただくと、寝る前にちょっと読むとか、いいなと思います。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

そうですね。ありがとうございます。そこも順番に、児童のところがある程度収拾できてきたら、その後にとこのような形で進めていこうとしているところなので、もう少し時間が来れば、また進んでいくと思います。ありがとうございます。

■事務局（生涯学習支援課文化・読書・スポーツ連携推進担当）

ご議論中、失礼いたします。事務局です。間もなく意見交換終了 5 分前となりますので、ご案内させていただきます。恐れ入りますが、おまとめのほどをよろしく願いいたします。

■高祖委員

あと、最近の若者たちが、例えば食べ物屋さんを探すのでも、これが食べたいからその一覧を出してというよりは、これが食べたくてお勧め順を教えてというふうに、結構お勧めされたい人が多いですね。だから、そういう情報発信というか、図書館の LINE なのか何か登録なのか分からないですけれども、「こんな気分の人にお勧め」とか、ちょっとプッシュ型で、「じゃあ、これを借りてみようかな」みたいな感じで、自分で行きたくなるような伝え方をするのも。

あと、図書館のところで並べておくという、「お勧め何々」みたいな感じにしておくのもいいかなと。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

自分で調べて行くというより。

■高祖委員

全部ずらっと並んでいて「こんなにいっぱいあるよ」とやってその中から探すというのが大変で面倒くさいみたいな人が結構多いので。あと、逆に、自分が借りたいと思ったとしても、その場で借りられないときもあるじゃないですか。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

予約だったりですね。

■高祖委員

そうそう。なので、お勧めされるという工夫があるといいかもしれない。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

リアルでもデジタルでもということですね。

■高祖委員

そうですね。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

ありがとうございます。

■長沖委員

それを受けまして、多分リストを見るという、リストが出ているだけで「どわっ！」と思うとか、開かなければいけないということ自体が「この量は……」と思う人が多いというのは、この読書行動を見ても分かるのですよ。みんな一番多いのは「気になったネット記事を読む」なのです。これは短いからですね。それで、新聞がなぜ減っているかといったら、新書 1 冊分を毎朝渡されるのは嫌だからなのですよ。あれは新書 1 冊分ぐらいのテキストがありますよね。だから、

やはり短いことが大事で、といたら、例えばジムにありがたい言葉が、長友の言葉だけがあったら、それは読みますよね。「私が体を動かしているのは、こういうメンタルだよ」といって。そこでさっき岩永先生がおっしゃった電子書籍とか、そこにはリンクがあって、これを見ればいい話で、実際に図書館でも今、すごく大きいデータベースは、カードで置いてあって、情報資源カードというのがあって、本そのものはそこに置かずに、ここに行くところなものがありますよというカードだけを置くのですよ。そうすると、気持ちが軽いから、「よっこらしょ」ではなくて、アプローチができる。なので、一応いろいろな制約はあると思いますが、ワンフレイズだとか、一部だけを抜き書きして置かれているほうが、多分雑誌を置くよりもさらに軽いけれども、近づいてくれるかなという感じを今聞きながら受けましたね。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

それだと図書館の中である必要は全くないですものね。外の本のないところでも、紙1枚で済んでしまう。もしくは画面1つ映して済んでしまうということですね。

■長沖委員

何なら八百屋でもオーケーですよ。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

そうですね。

■岩永会長

でも、いろいろな本好きがいて、もちろんそういうのは非常にコスパもタイパもいいのだけれども、本に囲まれていろいろ選びたいという人もいて、そこを散策していて「あっ、こんなものがある」という人もいますので、人様々ですね。ただ、確実にそういう人は少なくなっているのは確かで、本屋へ行っても何を読もうかと決めるときに大体よすがにするのは本屋大賞とか、お勧めのやつですね。しかも、対価が書いた本というよりも本屋大賞を狙うのです。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

誰かの評価が高かったものですね。

■岩永会長

本屋さんが、売っているほうが「これがいい」というふうに言っているのが一番いいですね。本屋大賞は芥川賞を上回っているのではないかと思いますね、人気の点では。芥川賞は癖が強いから。「落ちは何なんだろう？」と読むことがあるんだけど、本屋大賞は大体面白い。

■事務局（生涯学習支援課文化・読書・スポーツ連携推進担当）

すみません、事務局です。恐れ入りますが、3時35分となりましたので、これから3番の「まとめ・共有」につきまして、岩永会長にご進行をお願いしたいと思います。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

申し訳ありません、各分野、あと2〜3分でまとめの時間を改めて取らせていただきますので、あと3分後ぐらいにまとめをさせていただければと思います。

■岩永会長

そういうことですので、2〜3分でするしくお願いします。

さっきのこういうデータ、アンケートの結果なんかを見て、何人図書館に行っているかというのは、ここだけで見てもしょうがないので、ほかの区でどうなっているかというのは大事なことだと思うのですけれどもね。私は、荒川区は永遠のライバルだと思っているので、荒川区と同じような項目で比べたらどうかなと思っているのですけれどもね。これを世田谷区とか文京区

と比べてもしようがないのですよ。全然バックグラウンドが違うから。やはりライバルがどうかという。

■長沖委員

橋を渡って向こうの図書館に行くと言っている人がいますよね。

■川村委員

結構います。すごいですね。みんな「ゆいの森」にかなり行かれていますね。

■長沖委員

そうそう。

■岩永会長

逆のほうは行かないのですか。葛飾区は。

■川村委員

逆はあまり行かないですかね。ただ、綾瀬方面は確かに図書館があまりないので、葛飾区のほうに行かれています方はいますね。

■岩永会長

私は葛飾区で育ったので、金町育ちで。

■川村委員

金町もいいところですよ。「カナマチぷらっと」とか。

■岩永会長

北千住は都会だなと思って憧れていたのですよ。それで東京の真ん中のやつに聞いたら、「北千住？ 田舎の入り口だろう」みたいな。

最近すごいよね、北千住も。

■長沖委員

そうですね。

■岩永会長

評判も上がっているし、あいみょんも歌っているし。すごい。

■古瀬委員

私は、ゆいの森に携わって仕事をしていたので、構想 10 年で本当に全国の図書館を見に行き、議会と一緒に十何年かけてつくった、そのときの日本一の図書館をつくらうという意味で、子どもの子育て支援施設と複合だったり、「融合施設」と言っているのですけれども、あと吉村昭先生の文学館と一緒にいたりしているので、それでざわめきを許容するという、そこから荒川区も「ゆい」から変わっていったのですね。静かな図書館というよりも。それで、おじさんたちがいるようなビジネスコーナーもあれば、子どもたちが宿題をしているコーナーもあれば、本を読まないで大きな地球儀があってみんなが本当にそこで何か宿題を子どもたちがいつも集まってやっているような場とか、いろいろなゾーニング、いろいろなことを考えられて、いろいろな世代が行っても、いつでも自分がお気に入りのところを見つけられる工夫がしてあるので、レストランやカフェにも本を持って行けますし。

■岩永会長

そういうのは荒川区で 1 つしかないのですか。

■古瀬委員

荒川でも唯一そこで。ただ、尾久図書館を改装したときに、ゆいのコンセプトは入れました。

公園の中に今度は尾久図書館をリニューアルしたのですけれども、そこも、基本的には小さいのですけれども、同じコンセプトでつくりました。

■岩永会長

考え方が足立区と荒川区で違っていると思うのは、足立区は分節化というか、あちこちの地域でそれぞれ小さいものをつくっていて、みんな均等に近場で利用できる。そうすると、一点豪華主義ですごいものをつくるという発想はなくて、昔ながらのやつをやっている。

■古瀬委員

ただ、足立区は広いので、広さは強みかなとも思うのですよ。

■岩永会長

弱点であると同時に強みかもしれない。

■古瀬委員

荒川区と比べて人口も4倍違いますから。

■川村委員

ゆいの森は本当に建物自体が芸術ですよ。入りたくなるというか。

■岩永会長

最寄り駅はどこになるのですか。

■川村委員

町屋です。私も大学に行っているときに、町屋で降りてゆいの森を使っていましたけれども、あそこは居心地がいいですよ。

■古瀬委員

居心地のよさを求めたので。

■川村委員

本当にすばらしいと思います。

■古瀬委員

今度は足立区も今、梅田につくっている図書館が多分いろいろな新しい最先端の要素を取り入れているのではないかなと、今すごく期待しています。だから、例えば私だったらわざわざ北千住から1駅乗ってでも行きたい図書館に多分梅田のほうはなりますよね。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

頑張ります。

■古瀬委員

期待しています。

■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

ありがとうございます。

やはり今までの「図書館はこういうものだ」という既成概念をどこまで梅田で壊していけるかなというところかと。

## 【Bグループ】

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

では、時間が限られていますので。

もう一度整理させていただきますと、先ほどの①が体系図、皆様のご意見をまとめさせてい

ただいた区の家ですので、そこに対して皆さんの意見をまず頂けたらと思っています。

2点目がアンケートですね。アンケートを踏まえて、ではこういうものをやったらいいのはいかみたいなご意見があれば、そういったところも頂けたらと思っています。

③が施策評価シートですね。こちらの内容を踏まえて。これはもう皆さんとたくさん話しているものなので、これを踏まえて今後どうするか、何かいいものがあるかみたいなところを3色で。

その他、自由にフリートークは別のものを用意していますので、お話を頂けたらと思っています。

僕のほうでたくさん書きながらここに貼って、最後に発表するので。

どうですか。①から順番に話していったほうが分かりやすいですか。

■西岡副会長

そうですね。お互い関連することもあると思いますので、どんどんご意見を頂ければ。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

分かりました。

どうでしょう。ここからが一番分かりやすいですか。

■西岡副会長

そうですね。

少し書いていただいたところも、事務局でまとめていただいたことに対するご意見みたいなことでもいいかと思えますけれども、いかがでしょうか。先ほど僕から、このアンケートで、例えば鑑賞みたいなことと言うと、いいところが50%ぐらいで、もちろん今後それが60%、70%になればいいのですけれども、その方法として一番単純に感じるのが情報の提供みたいなことになっていると思うのです。今までは割とそういう方針で来ているのですけれども、先ほど他区とか東京都のデータも調べてみて、それが大体50%止まりであるならば、むしろ内容のほうに考え方をシフトしていったほうがいいのではないかと思ったのです。僕は東京のことにあまり詳しくはないのですけれども、この間NHKですごく面白い話題があって、人間の寿命というのはどんどん延びているのです。だけど、面白いことに、110歳ぐらいが限度なのですって。物すごく長生きで115歳ぐらいなのですけれども、それ以上生きた人はいないのです。だから大体110歳というのが人間が持っている限界で、人が普通の生活をしている中でいろいろなものを鑑賞できるようなことを考えたら、東京都内に住んでいる人たちにとってはそれが50%ぐらいだというようなことがもしも出るのであれば、そこは無理に60%にするとか70%にするとかいうよりも、例えば足立区独自の鑑賞できるようなものがあるとか、そういう足立区の独自性みたいなことをもうちょっと考えていくほうがいいのではないかと。

■葛西委員

何かアンケートを読んでいて、めちゃくちゃ全部数値が上がっています。前はコロナというものもあるのでしょうけれども、子どものアンケートで自分に自信を持っているかとか、そういうのも軒並み上がっていて、すごいなと思いました。私も西岡先生と意見が近いかもしれないのですけれども、多分、文化芸術に対する興味とか関心って足立区さんの取組がすごくしっかり広まってきていて、一定数ちゃんと数値としては出てきているのかなとアンケートを見ていても思いました。

では追加でどういうことに力を入れていくのだろうなと思ったときに、「やりたいことが叶うまち」というのを考えると、足立区で一番やりたいことが叶うよねというポジションを取ってい

くみたいな、マーケティング的な発想になってしまいますけれども、結局、葛飾より、江戸川より、江東区より、港区より、足立区が一番やりたいことが叶えられるんだ、その一つの手段が文化芸術なんだというところだと思うのです。その観点で考えたときに、これから先、鑑賞の機会だけではなくて、活動のサポートに力を入れる必要があるのかなと思います。どこの区でも活動するときの場所の問題というのは絶対にあると思いますし、場所に限らず活動支援みたいなところに重きを置いていくというのは区の方針としてあるのかなというのが一つ。

あと、足立区ならではといったときに、今回追加された「足立区への愛着や誇り（シビックプライド）」というところは非常に重要になるのかなと思っていて、そのあたりの文化芸術面での足立区ならでは感というか、ほかと軒並み見比べたときに明らかな違いをつくっていくというのがこの先数年の足立区さんの大きな力の入れどころなのかなんていうことは、見ていて思いました。

■西岡副会長

そういうのはパーセンテージと違う発想ですよ。少数でも足立区にいたことを喜んでもらえるならば、それは大きな成果ですけども、どうしてもアンケート上はそういうことは反映しにくいという面はあると思います。

■葛西委員

そうですね。

■西岡副会長

場所のこととか支援というのは探せば結構あると思うのです。オリンピックを見ていたときに、ジャンプだったと思うのですけれども、銀メダルを取った選手が、企業の支援が全然なくてもう続けられないのではないかとということでアルバイトをしていて、それでも頑張っている話があったのです。そこはお父さんが選手だったということもあるけれども、意外にオリンピックに出るような選手ですら支援というのはすごく深刻な問題だったりするのではないかと。今おっしゃった場所ですよ。今ちょうどオリンピックが話題になっているからかもしれないけれども、例えばスケボーの場所とか、そういう足立区独自の場所ができるならば、結構区外から来る人とか、そういう話題性もあるので、これもアンケートとは別の価値観みたいなものも入ってくるので。

■葛西委員

その行動指標みたいなのを挙げられるような何かが打てるといいのだろうなと思ったりはします。

■西岡副会長

やりたいことが叶うというのはそのあたりですよ。

■葛西委員

そうですね。

■西岡副会長

そういうことで言うと、地域の伝統や文化というのはなかなか扱いにくい問題。扱いにくいと言ったら失礼になるのですが、ほかのところを伸ばすことというのは結構難しいですよ。

■田島委員

田島です。よろしくお願ひします。

この課題の中で、文化芸術に関心は高いが実際に鑑賞した人は少なかったり、小中学生の過去1年間の鑑賞が大きく減少したというのを見た中で、気軽に文化芸術に触れる機会をもっと増やし

てほしいなと子育てをされていて思っていて、葛西さんのようなすごい方だったり藝大生さんとかと交流できるような場だったり、足立区の文化的な人材の方と交流できるような場を増やしてほしいなと思っていて、その中でやはり活動支援がすごく大事だと私の中では思っていて、文化芸術を推奨するための補助金とか、足立区さんだけで運営するのはすごく難しいなと思っていて、そういう志がある民間団体さんとかに対して、私も任意団体を運営しているのですけれども、補助金とかを充実させていただければ、もうちょっと気軽に文化芸術に触れる機会が増えていくのではないかと思います。

■西岡副会長

藝大さんのほうには。

■田島委員

藝大さんとも触れられないのですけれども、どういうふうにつながればいいのだろうみたいな。

■西岡副会長

足立区でも結構いろいろな支援があって、例えばアトリエゾンセンターというのが藝大の中にあるのです。

■田島委員

北千住ですものね。

■西岡副会長

そうです。北千住にキャンパスがありますので、その中の部門でアトリエゾンセンターというのがあるのです。それは足立区連携で、藝大が足立区民の皆さんに提供できるプログラムをずっとつくり続けています。アトリエゾンセンターの企画なのですけれども、そういう活動もあるので、その辺のところももうちょっと周知すべきかもしれませんけれども、ほとんどの企画は、応募に通らない方もたくさん出るようなコンサートとか。だから、その辺はもうちょっと足立区の活動としていろいろな支援としてもアピールしていったほうがいいですね。それは入場者を集めるということではなくて、足立区独特の活動であるみたいなこともあるので。それは多分それほど。そこの企画です。

■田島委員

足立区のイベントは結構倍率が高くて、何十倍、何百倍だと、我が子が成長するまでにこれは参加できないだろうなと思ってしまうたりするので、もっと気軽にいろいろな多様な選択肢があればなと、子育てしていると思います。

あと、ギャラクシティが来年でなくなってしまうので、ギャラクシティの代替案としても明確に示していただけると。

■西岡副会長

なくなるのですか。

■田島委員

ごめんなさい。3年間改修してしまって、3年間というのは大人にとっては大したことはないですけれども、子どもにとっては結構大きいものなので。

■葛西委員

3年も？ そうなんだ。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

アウトリーチで学習センターとか学校とかに出ていく形になるので、その機会をどれだけ増や

せるかというのを今。来てもらったほうが数はたくさん体験できますが、どうしても外に出ると機会的には減ってしまうので、それをどう担保できるか。

■田島委員

プラネタリウムとかもすごく大好きなので。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

コロナではないですけども、本当に成長する3年間というのはすごく大事なので。

■田島委員

すごく大事な3年間になくなってしまるのが子育て世代としてはすごくつらくて。

■西岡副会長

そういうことで言うと、今はすごく運の悪い時期で、高度成長期の終わりぐらいの建物がちょうど全部駄目になっているので、コンサートホールなんかも。

■葛西委員

改修が多いですね。文化ホールは。

■西岡副会長

文化会館なんか改修に5年とかぐらいじゃないですかね。東京都の新宿区民ホールとかはきれいになっているということだと思いますので、ちょうど今は子どもさんにとっては運の悪い時期かもしれない。

■田島委員

代替案を示していただければ大丈夫なので、明確にこの部分はこうしますみたいなのを提案してほしいなと思っています。

■西岡副会長

郷土博物館も改修工事を終わってリニューアルしたと。

■小泉委員

よろしいですか。小泉です。

まず、アンケートの配分を見たのですけれども、これは学校関係とか障がい者の団体は随分協力してくれるという感じで比率が多かったのでしょうか。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

回答のですね。

■小泉委員

そうですね。子どもたちの回答もそうですし、障がい者の団体の皆さんの回答もそうなのだけれども、傾向として、例えば小学校5年は文化芸術の劇団四季の体験とかに足立区は取り組んでいるから、回答としても触れた機会が高くなるというのは想像がついているわけです。障がい者団体なんかも、障がい者手帳を持っていれば無料で美術館とかそういうところに行ける。団体として見学すれば費用面でもいろいろ有利なのだなと。そういう足立区が取組がアンケートの結果にも影響しているのだろうなというところは見受けられます。

アンケートの結果の集計を見たのだけれども、文化芸術といっても、どういうところに関心がありますかという、やはり時代は変わって、圧倒的にコンテンツ産業、これが以前と違うところだと思うのです。そこに皆さんは関心を持っている。だから、昔ながらの文化芸術とは限らないし、SNSを通じたYouTubeとか、いろいろなものを目にする機会、チャンネルが多くなっている。そういう部分で、子どもたちも大人もそうなのですから、鑑賞しているとか見ていると

いう捉え方自体が、本格的に劇場に行つてとか美術館に行つてだけではないものが前とは違っているのだろうなということを感じます。

あと、地域文化課長もそうかもしれないけれども、私も学校関係で子どもたちと関わっているので、これは地元ですけれども、感じたことなのだけれども、学校を支えるいろいろな取組を事業でやるわけですけれども、例えば地域の方々、PTA もそうだけれども、昔遊びというのをやってあげる。ベーゴマとか、めんことか、将棋とか、それから、夏になると暑いから浴衣の着つけ教室をやったりしているのです。あとは茶道教室。それから、餅つきなんかは一般的にやっているとと思うのです。それから、この前、悩みというか相談を受けたのは、昔は子どもたちで太鼓をたたく。学校の中でクラブがあるかどうか分からないのだけれども、イベントをやるときも子どもたちが太鼓をたたく。できればそういうものを残していきたいと学校側も思っている。けれど、昔は結構いたのだけれども、子どもも少なくなつたし、やっていた方がみんな大人になってしまつて、てんでんばらばらで、教えてくれる人がいなくて困っているとか、そういう昔ながらの伝統的な文化を継承していくのは大変だな、時代とともに変化しているのだなど。

それと、今回の施策で、この前の令和 6 年から 8 年で変えようとしているところの大きな違いとしては、足立区がメインテーマとされている「やりたいことが叶うまち」というところに行き着くことを考えれば、今、葛西先生もおっしゃっていたように、ここには柱 1・2・3 にまとめましたよとなつて、出会いの創出とか芸術活動の促進とか次世代への継承となつているのですけれども、究極は体験の機会をつくるというか、与えるというか、要するに、さっき会長が言っていたように、楽しさに気づいて深めて広げて心豊かにするということに行き着くのが大きな目標であつたとしたら、体験して感動する、よかつたなど、そういうところに行き着くような表現にしたほうがいいのではないかなど。そのために小学校 5 年生なんかがやっている劇団四季の鑑賞なんていうのは、親からするとうらやましいぐらい。そんな機会は昔はなかつたわけですよ。一流のものに触れるとか。内容的には恋愛物とかが多いのだけれども、ああいうすばらしいところで、一流だし、絵画でも何でもそうなのですけれども、実際に体験していただく、そういう方向性を持っていけるところを最終的には、豊かな人間というか、本人としても足立区に住んでいてよかつたな、いろいろなことに触れたなど、そういうところに行き着くのではないかなど、雑駁ですけれども、思った次第です。

#### ■西岡副会長

それをいかに提供できるかということですよ。体験ですね。

あと、オリンピックの話ばかりであれですけれども、この 3 分野というのは感動でつながっていますよね。この間オリンピックを見てそう思ったのですけれども、やはりすごい感動があるし、読書の感動というのは人生の中ですごく残っていく感動ですよ。文化芸術もそうですけれども。この 3 分野というのは感動でつながっているなと思ひました。そのきっかけ、気づくというのは、やはり体験ですよ。

#### ■小泉委員

先ほど年齢の寿命の話があつたのですけれども、やはり人生楽しくというか、充実したという部分では、幾つになつても感動するということです。美しいものは美しい、きれいなものはきれいな、おいしいものはおいしいという。子どもたちも区民も、文化も芸術もスポーツも体験したり経験したりする中で感動するというか、おいしいとか喜んだとか、そういうところを一番重視したような方向性を持っていくということですよ。

■葛西委員

毎回この議論になりますけれども、やはり質の部分は何かで問いたいですよ。結局、今ここで、文化芸術を体験しましたか、体験しましたと言っている体験したコンテンツの何%が実際にここに書いてある何歳になっても学ぼうとする態度とか、好奇心とか、地域のつながりを持つという思いとか、そういうものにちゃんとつながるコンテンツだったのかみたいな。コンテンツに善悪はないと思うのですけれども、そういうものに寄与し得たのかみたいなところが見られるとよりいいのかなと思ったのです。

あと、これは全然話が変わりますし、すごく個人的な興味分野なのですけれども、6ページの文章を読んでみると、人生、寿命が長くなったから長く心豊かにいる何かを足立区さんとして提供しなければいけないよねみたいなことなのかなと思ったのですけれども、これは哲学的に難しい話で、寿命が長くなったから生きがいを見つけなければいけないのか、生きがいがあるから長生きしたいと思うのか、これは難しい話だなと思っていて、できることなら後者であってほしいなと思うわけです。なので、やりたいことが叶った結果、足立区さんは長生きしたくなるまちだよよねみたいな、あの地区にいるともっと生きていたいみたいな、そういう夢のあることができるよりいいなど、見ていて思いました。

■小泉委員

楽しみが続く。

■葛西委員

そうそう。死にたくないという。

■西岡副会長

さっき読んでいた70歳以上の読書のアンケートだったと思うのですが、70歳以上の人にいかにか読書がと書いてあるのがあったので、僕も70を過ぎたら目の問題で読書が結構つらくなってくみたいなことで、それは思った以上に深刻ですね。物すごい速さで目が。

■田島委員

眼鏡を替えてもですか。

■西岡副会長

そういうことではなくて、目医者さんに行ってもそれは分からない。分からないというか、もちろん分かっているのかもしれないけれども、老化の一種だからあれかもしれないけれども、多分網膜の緊張感というのがうまく。年齢的に全然違うじゃないですか。

■葛西委員

それを別の鑑賞機会とかで賄えると一番いいのですよね。読書がしんどい人に向けても。

■西岡副会長

今は発達しているから、朗読とかそういう楽しみ方もできますよね。すごくたくさんそういう機会があるし、そういうことの恩恵というか、きちんと享受できるような伝え方も大事ですよ。年を取ると嫌になってやめてしまうのですけれども、ほかの方法みたいなことをいろいろ提案できることもある。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

一つ皆さんにお伺いしたかったのが、生涯を通じた文化の機会とかいうところで、今までは、小5の文化芸術もそうですけれども、いろいろなコンテンツをたくさん並べて、どうぞという状況なのですけれども、できれば0歳から100歳まで、どのライフステージだったら、例えば学生

だったら学校と連携して何をやるのか、例えば青年期になって仕事を始めるけれども、それに対してはこういうものをやったらいよいよねみたいな切り口が年齢によって変わってくるし、例えば文化祭なんかは20代の人にいいよと言うよりも、50代、60代で、人生経験を積んで、子育てが終わって、少しゆっくりしたときに提供したらいいのか、そういったタイミングなんかも大事なのかなと思っていて。そして、文化だけではなく、いろいろな分野、学校とか、仕事もそうですし、子育てもそうですし、そういったいろいろな分野がいろいろな年齢層のところに入り込むような提供の仕方、きっかけづくりを与えないと、届く人には届くけれども届かない人には全く届かないみたいなのところが出てくるのかなと思っていて、その辺で何かいい考えがあれば。

#### ■葛西委員

私はばんばんやるのに賛成です。説明の仕方が難しいのですけれども、足立区さんが推奨する文化芸術だったり足立区さんが支援する文化芸術というのは、将来的に足立区さんのためにならないといけないことだと僕は思うので、個人的にはもっと、どちらにせよ、これはこの人たちに見てほしいとか、この団体はこういうふうに寄与しているからもっと支援するとかいうのを、今も多分、「えんチャレ」もそうですし、いろいろな基準でやられているとは思いますが、僕個人としてはもっとはっきりやってしまってもいいんじゃないかななんて思う一方で、もちろん自治体として何かを切るわけにもいかないと思いますし、それをやることで逆に鑑賞する自由を奪うことにもなりかねないと思っていて、ごめんなさい、結論を何も言っていないのですけれども、難しいですよ。これは40代の方に見ていただきたいと言ってしまった瞬間に、じゃあ60代の私は見に行っただけではいけないのかしらとか思われかねないので、そこは難しいことだと思いますけれども、個人的にはもうちょっと足立区さんのメッセージが伝わる何かがあって全然いいんじゃないかなと、見ていると思いますけれどね。

#### ■西岡副会長

年齢と関係ないということはないのですけれども、子ども時代に分からなくても、体験したことも後でまた生きてくるのかなという気もしますよね。良いことの体験というのはまた違う世代で。読書なんかはまさにそうですね。

#### ■小泉委員

年代別というお話があったのですけれども、ある鑑定士というか一流のものを見分ける立場の方からの意見で、見てみて多くのものを見ることで一流になる、そうすると本物か、良いものか悪いものかの見分けがどんどんレベルアップすると言うのですけれども、年齢的に言ったら、子どものうちはいきなり自分で体験するとか高度なものを作るとかは無理だけれども、例えば演奏とか絵とかを多く見る体験、それだけでどんどん自分で成長していくと思うのです。例えば中学生ぐらいになると踊りとかダンス、中学なんかは最近盛んだと思うのです。こういうものを自分でやってみたいとか、それでどんどんレベルアップを。また、もっと年齢が上がってくると、もっと芸術性のこととか、学識的にも深いものとか、そういうところに興味を持っていくというか、年齢層的に考えるのだったら、幼児期とか児童なんかについてはとにかく見るのが目標、そんな捉え方もできるのかなと思います。

#### ■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

こうなってほしいというメッセージを伝えていったほうが分かりやすいのかもしれないですね。

#### ■田島委員

メッセージは欲しいです。

#### ■事務局（地域文化課調整係長）

皆さんにお伺いしていいですか。デジタルの話が結構出ていたじゃないですか。今はデジタルがすごく盛んで、スマホとかでもすぐ手軽に見れてしまったりという話もあるので、私も皆さんと同じように体験がすごく大切だと思っていて、実際に本物を見る、絵でもそうですけれども、演劇とかはもちろん、本物を見せるというのが大切だと思うのです。今の時代はデジタルが進んでいるので、それも本当は入れ込んだらいいのかなと思いつつ、私はやはり体験が必要な、実際に本物を見るというのが必要なのかなと思っているので入れ込んでいなかったのですけれども、そこら辺はどうですか。

#### ■小泉委員

最近、かなり高齢の女性の人から言われたのですが、テレビを見ているんですかとか話題を聞いたら、私は YouTube ばかり見ていると。片やスマホなんかいじれない人もいるわけですよ。東京都もスマホサポーターなんていうのをやって、東京アプリもそうだけれども、そういうボランティアを募集したりしている。まさしくいろいろなものがどんどん変わっていつている。

#### ■田島委員

デジタルは自分でかなりやっている方が多いと思うので、個人的にはあえて入れなくてもいいのかなと。やはり体験とか、区民がやれないことを書いてもらったほうが私個人としてはいいかなと。

#### ■西岡副会長

あと、変化についていけない人が。今、YouTube の話が出ましたけれども、YouTube はあれだけの使用者を確保していますでしょう。何が起こっているかという、YouTube で検索する、検索エンジンになる、それから YouTube で Amazon みたいに買い物をするみたいなことによって、YouTube 自体がどんどん変質していくのです。だから、その情報をきめ細かく提供するというのは結構難しいのです。

#### ■事務局（地域文化課調整係長）

YouTube とかも文化芸術のこともばんばん調べられてしまうし、手軽に見れたり聴けるじゃないですか。

#### ■西岡副会長

昔のカメラ屋さんが電化製品を全部扱うようになって、いまだに「カメラ」の名前は残っているみたいですが、YouTube の当初の目的とは全然違う発展の仕方をしていくみたいなので、デジタルの世界というのは結構。

#### ■葛西委員

古くさいですが、僕も、結局デジタルは使しようというか、1を100にする取組だと思っていて、例えば何かのコンサートを聴いた、劇団四季を生で見た子が、その感動体験を家でもう一回思い出したいとかいうときに劇団四季を検索してそれをもう一回見る分にはすごくいいと思うのですが、その感動と同じぐらいの、何か人生を変えるような衝撃がいきなり YouTube で劇団四季を見たときに伝わるかという、古くさい昭和の人間と言われたらそれまでですが、僕はそこは違うなと思っていて、区のほうで押し出す取組は別にデジタルでなくてもいいのではないかなと。一意見ですが。

#### ■西岡副会長

難しいことかもしれないけれども、やはり足立区独自の価値観とか、そういうのを思い切って

出してもいいのではないかと。でないと、割とどこの区でもやっているようなことにどうしてもなってしまうので、どこかで独自性とか特徴を思い切って出してもいいのではないか。

■葛西委員

そうですね。極論、この中に「これとこれとこれは足立区では文化芸術とは認めません」ぐらい書いてもいいと思います。自治体としてはあるまじきですが。

■事務局（生涯学習支援課文化・読書・スポーツ連携推進担当）

すみません、事務局です。恐れ入りますが、3時35分となりましたので、これから3番の「まとめ・共有」につきまして、岩永会長にご進行をお願いしたいと思います。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

申し訳ありません、各分野、あと2〜3分でまとめの時間を改めて取らせていただきますので、あと3分後ぐらいにまとめをさせていただければと思います。

■事務局（地域文化課調整係長）

3分ぐらいでまとめろと言っています。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

3分ぐらい。大丈夫ですよ。これだけ出ればね。

■西岡副会長

まとめるのは難しいけれども。

■葛西委員

言うほうは楽なのですけれどね。すみません。

■事務局（地域文化課調整係長）

計画の中にそういうデジタルとか時代のことを入れたほうがいいのか、すごく悩んでいて。入れてあるところももちろんあったりするのです。

■葛西委員

いいんじゃないですか。

■西岡副会長

今、学校なんかでデジタルリテラシーみたいなのを結構やっていますよね。

■小泉委員

葛飾区なんか、産業展があるとデジタルコンテンツのブースがあって、子どもたちもみんな見に来るわけです。区内のそういう事業者とか芸術家みたいな人がいて。

■葛西委員

でも、デジタルコンテンツは区がサポートしなくても、もはや勝手に覚えていくのではないかという気がしますけれどね。

■事務局（地域文化課調整係長）

郷土博物館とかもデジタルで見れてしまったりするのです。

■西岡副会長

そうですね。あれはすごいですね。丁寧につくってあるので。

■事務局（地域文化課調整係長）

でも、実物を見てくれよと私は思ってしまうのです。

■西岡副会長

そこらいかにかに体験につなげるか。

■葛西委員

いいじゃないですか。実物を見てくれよと基本方針に入れていただいて。

■田島委員

私はわざわざ区がデジタルを押さなくていいなと。子どもとかも自分たちでやっているからいいのではないかなと。

■事務局（地域文化課調整係長）

本物を見るというのは本当に大切だと思う。

■小泉委員

リアルが大事なのです。だから、さっき言った本物か偽物かというので、本物はデジタルではないから。本物を見て見て見てという。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

きっかけというか、入り口というか、知るという意味ではいいですけども、それで心が動くかというところ。

■事務局（地域文化課調整係長）

知識を入れる。

■葛西委員

使い道ですよ。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

バランスだと思います。

■田島委員

実地体験を大切にしてほしい。

■西岡副会長

予算を何百万もかけていろいろな映像を作りますよね。だけど、今は AI の技術で子どもでも数分でできてしまう。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

ぱっとできてしまいますからね。

■西岡副会長

だから、写真が 2 枚あったら、そこにちょっとストーリー性を持たせて勝手に映像を作っていくみたいなことがもう起こってきているので、なかなかついていけないですね。

■事務局（地域文化課調整係長）

さっきの藝大の話なのですけども、足立区は藝大と連携していて、昔、先生がやられていましたよね。年に 4～5 回はコンサートをやっています。やはり抽選なのですけども、すごく人気があって、アウトリーチということで、この前は西新井のギャラクシティのプラネタリウムの中でコンサートをしてもらったり、体験型ということで、この前は藝大の中でお囃子でしたっけ。

■西岡副会長

はい。邦楽科があるので。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

あと、ヴァイオリン。

■西岡副会長

ヴァイオリンも入っている。

■田島委員

音楽がメインなのですね。

■事務局（地域文化課調整係長）

そうです。音楽をメインにやっています。

■西岡副会長

美術も少し関わったりとかいうこともありますし。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

何百と応募が来るのです。

■田島委員

だから、倍率が高過ぎて、我が子が成長してしまうみたいなので、すごい競争が起きて、本当に2倍に増やしてほしいです。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

そういう機会、数を増やしていくということが大事ですね。

■事務局（地域文化課調整係長）

無料なので、すごく抽選は来るのですが、毎回入れてください。

■田島委員

全然無理だから諦めています。

■事務局（地域文化課調整係長）

大丈夫です。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

あと、場を設けるのとプラスして、いる場所に提供するというか、例えばストリートピアノだったり、路上ライブみたいなものもそうですし、まちかど展示なんかもそうですけれども、人がたくさんいる場所に出向いて行って何かをすると多くの人が見られるじゃないですか。そういうのと両方やっていく必要があるのかなと思っています。

■田島委員

キャンパスツアーもお願いします。藝大のキャンパスツアー。

■事務局（地域文化課調整係長）

なるべく大きいところで。今度は大きいところでやったりするつもりなので、ぜひ何回も入れてください。デジタルで申請できるので。

■田島委員

なかなか通らなくて。

■事務局（地域文化課調整係長）

よろしくお願いします。

■葛西委員

デジタルで言うと、僕はいつも町会とか自治会さんと防災訓練の防災の仕事とかをしていて、今は町会に人が入らなくて困っているとそこら中で言われるのですけれども、すごく簡単で、その一体の電波を全部止めればいいと。携帯がつながらなくなったら勝手に町会に入るから全部を止めてしまえと思うのですけれども。

■小泉委員

昭和初期に戻る。

■葛西委員

いや本当に。足立区さんも、「一切ネットが使えないまち足立区」とか、僕は面白いんじゃないかなと思いますけれどね。

■西岡副会長

回覧板になる。

■小泉委員

スマホが役に立たなくなったときにね。

■葛西委員

そして劇団四季を見て、思い出したいときは葛飾に行ってくれと。ただ、生で見るには足立区に來いというぐらい振り切ったらいいんじゃないかなと思うのです。

■事務局（地域文化課調整係長）

葛西委員は何で太鼓をやろうと思ったのですか。きっかけは。

■葛西委員

それこそ感動ですよ。僕が高校1年生のときに部活で太鼓部というのがあったのです。入って、本当にうそのような本当の話で、一発触れた瞬間に、これに人生を賭けようと思ったのです。それぐらい衝撃があつて、そこからはもちろんふらふら四の五のありましたけれども、最終的には、ビビッときたというか、感覚としては。

■小泉委員

「彩-sai」ですよ。

■葛西委員

そうです。

■小泉委員

そうですよね。えんチャレをずっと知っているから。

■葛西委員

お世話になっています。

■田島委員

それまでは音楽はやっていなかったのですか。

■葛西委員

何もやっていないです。

■田島委員

運命の出会いだったのですね。

■葛西委員

そうですね。

■小泉委員

最近、学校側から太鼓を教えてください。要するに、町場の子どもたちに、毎日ではなくて、たまにでいいから音の出し方を教えてください、誰かいませんかと。

■葛西委員

いつでも伺います。任せてください。

## 【C グループ】

### ■溝口副会長

よろしく申し上げます。大久保さんがいらっしゃるので心強い。

### ■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

では、皆様よろしく申し上げます。本日はスポーツ振興課長が不在ですので、私のほうでスポーツ分野を担当させていただきます。もしかすると分からない部分があるかと思えますけれども、よろしく申し上げます。

一応今から 3 時 35 分ぐらいまで、30 分弱お時間がありますので、よろしく申し上げます。冒頭に申し上げましたように、何か決める会議ではありませんので、本当にご意見でも結構ですし、全体の中ではご質問しづらかった部分のご質問でも結構ですので、基本的には新しい計画に向けて「こうすべき」ですとか、「これを盛り込まないのか」ですとか、そういったところで意見を頂ければと思いますが、いかがでしょうか。

### ■溝口副会長

すみません、私から、皆さんが話しやすいように、先に。

先ほど、すごくスポーツ部会は実施率が上がっていて、全体的にも全て見ても実施率 39% ぐらいまで上がったのですよね。だから目標を達成してしまっているのですよね。すごくいい、順調なのですけれども、皆さんも感じたように、ほかの分野ではこちらが上がるとあちらが下がるみたいな反応も図らずもあって、その辺がどうしたものかなというのは正直ありまして、でも、週 1 回の実施率が上がったので、別に 1 日増えたから読書をする日が減ってしまったというわけではないので、その辺を取り合ってしまうみたいなのはどうかなというのが私自身は思ったところです。むしろ 15 分でも 30 分でも濃い時間のプログラムが展開できたらすごくいいなと思ったし、何よりもさっきの公園で「パークで筋トレ」とか、身近なところの機会を与えたことがすごく増えたなというのもあって、よかったなと思います。

第 3 次スポーツ基本計画でも、「誰もがアクセスしやすい」というところをどうしていくかというところでは、アンケートを見ると、障がい者のことに関してすごく力を入れている割には、あまりどうなのかなというか、そこはすごく今後に向けての課題かなというので、今、自分自身も視覚障がい者の柔道の理事をやっている、何か私にできることがないかなというのが、「する」というのは視覚障がい者、じゃあ「支える」とか「見る」というところができないかなというのと、大会とか合宿を招致するというところを今、スポーツ協会を通じてやっているのですね。なかなかその辺の、足立区民の方の障がい者に対する日常の取組はできているのですけれども、パラスポーツに対するアピールというのは、もうちょっと考えたほうが次に向けていいのかなと。そういうところでは、ヴェルディさんに頼んでやっていますよね。だけど、パラスポーツの方にスポットを当てると何かをもうちょっと考えないといけないかなというのは個人的に思いました。

あと、細かいアンケート用紙を頂いて、私が気になっていた地区なのですけれども、あまり差が出なかったのだなというのはあるのですけれども、地元の人じゃないので分からない。竹の塚はどの辺なのですか。

### ■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

竹の塚は足立区の北部になります。

### ■溝口副会長

どういう地区なのですか。

■中村委員

埼玉寄りですね。

■溝口副会長

埼玉寄りなんだ。ここだけ回答して下さった方が多く出ていて。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

でも、総合スポーツセンターから竹の塚から離れてはいますので。竹の塚には体育施設というのがプールぐらいですかね。そんなにスポーツ環境が何か充実しているかということ。

■中村委員

竹の塚は総合スポーツセンターですよ。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

最寄り駅は竹の塚ということですよ。バスで10分～15分ぐらいですけども。

■溝口副会長

何か関心が強いのかなというところは、その場所というか、総合施設が身近にあるというのはやはり大きいのでしょうか。その辺がクロス集計で、もっと絶対的な数がないとこの辺の格差とかは分からなかったなというのは思ったのですけれども、竹の塚を逆に、これを見てここをちょっとクローズアップして足立区らしい、埼玉寄り、千住寄りじゃないところでも、ある意味こういう層を成功モデルにして何か施策を打っていくというのもありかなと思いました。

以上です。こんな感じでいいですかね。

お一人ずつ。では、中村さん、どうぞ。

■中村委員

今のお話の関連なのでですけども、足立区全体のスポーツという目線で見るときに、もっとビジュアル化してほしいなと思うのです。要は、スポーツ施設が足立区の中に、区の施設があります、民間の施設もあります、プールもあります。そこにどのくらい人が通っている、どこから通っているのか、そういうのを何かデータとして持っているのか持っていないのか分かりませんが、そういうのをつくっていただきたいなと思うのです。スポーツ施設はありますが、でも、アクセスの方法が公共交通機関しかないです、あるいは車がないとか自転車でいける距離ではないかというのがあるので、そういう問題をクリアにするためには、どうやってアクセスしているのかというのを調べてもらう必要があるかと思うのです。公共交通機関なのか、自転車なのか、徒歩なのか。そうすると、その大きな施設の利用者というのは恐らく限られているのですよ。

私もスポーツ部会か何かで総合スポーツセンターに行ったことがあるのですけれども、あそこに行くのはなかなかしんどいよ。車もないので。そうすると電車で行くかみたいな。なかなか電車で行くのも面倒だから、じゃあやめておこうかな。そういう形でそれぞれの施設にどういうふうにアクセスしているのか、どのくらいの人が行っているのかというのをビジュアル化できたらいいかなと思うのですけれども、それが一つですね。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

確かに、一番多いのは自宅周辺というところになると、やはりアクセスというのも一つスポーツに親しむというところでは、大きなポイントになってくるのかな。計画は一応、身近なところでスポーツをということで、自宅周辺みたいな場でちょっとしたウォーキング、階段を上ったりとかを推奨してきたところがあるので、そういったところにどちらかというところをフォーカスして

きたのですが、そういった視点でも見たほうがもっと広く推進できるのではないかといいところですかね。

中村委員、まず一つはそこということでしたけれども、もし何かあれば続けて出していただいても。

■中村委員

全然違った視点なのですけれども、評価の点でお話しさせていただくと、5点満点の評価なのですけれども、区民評価委員会ではコンマ刻みなのです。0.5刻みなのですよ。それを導入していただきたいということと、全体評価を自動計算はやめていただきたい。4という評価をつけたけれども、3に近いかもしれない。3と4を出すと、全体評価が自動計算で4になってしまうのですよ。それをやめていただきたいということと、コンマ刻みですね。0.5刻みにしていただく。そうすると、1の差というのはなかなか難しいので、0.5刻みであればそれなりの評価ができるかなと思いますので、評価点数の仕方についてはそのように要望したいと思います。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

総合評価を自動計算でなくすとおっしゃいますのは、総合評価についてもあくまで合議というか、個別は3と4だけでも総合評価はどうしましょうかというのを議論の中で決めるということですか。

■中村委員

そうです。そこは重要だと思います。全体的に見て、個別の事業は合議かもしれないですけれども、全体的に見て評価が4なのか3.5なのか、そういう評価の仕方がいいと思いますね。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

私も様々な区の評価委員会に出させていただいていますけれども、確かにそのようにやっているところがむしろ多いところかも分かりませんので、そこはご意見を踏まえて少し見直しは考えたいと思います。

■中村委員

それと、評価シートのところで、「あだち脳活ラボ」の登録ですね。今見てみたら「パークで筋トレ」がポイント評価に入っていますよね。20ポイントつくようになっているので、そこは評価のポイントに入れてもらって非常にいいかなと思うのですけれども、この「脳活ラボ」の導入者数というのが今どのくらいあるのかというのを以前、去年の9月ぐらいに確認しましたら6,000というふうに聞いたのですけれども、人口が60万人近くいて6,000というのは少な過ぎるので、実際に「あだち脳活ラボ」を使うのであれば、もっと導入数を増やしていただいて、その導入した方々が「パークで筋トレ」に行くとか。

脳活ラボのいいところは、糖尿病対策をやっているセクションが「ベジチェック」というのをやっていて、それと「ちょこ活」、ちょっとした運動をしましょうよとか、階段の上り下りをしましょうよとか、食事を作っているときにつま先立ちして何かやりましょうよという、食生活の改善とちょこっと活動を加える、「ちょいスポ」じゃないですけれども、そういうものを加えてやっているというのが「脳活ラボ」にも出ているので、そういったことをうまく活用されているのかなと思います。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

今回、「パークで筋トレ」のところの内容で「脳活ラボ」を記載させていただいたという、そこを今取り上げていただいたという理解でよろしいでしょうか。

■中村委員

そうです。ポイントが入っていました。20ポイント加算みたいな。

■木村委員

しゃべりますか。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

申し訳ありません、目が合ってしまったので。

■木村委員

そういう感じかなと思いました。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

よろしく願いいたします。

■木村委員

まず1つ目が、調査の結果なのですけれども、まず、先ほど岩永会長からは、30%以上あるということで一定の数が取れているという話だったのですけれども、ちょっと気になったのは、その内訳みたいなものを見たときに、障がい者の数が実はめちゃくちゃ少ない。何だったら、ほぼウェブでも取れていないですし、16歳に全部まるっと入れてしまっている、一般のところに入れて、これはごまかしているわけではないでしょうけれども、そういうふうに見えなくもないような感じになっていたので、そこはすごく気になったなということで、そこで本当に、要するに、今後パラスポーツとか、ほかにも障がい者向けのデザインを組んでいくと思うのですが、障がい者に関してはこのアンケート結果によって反映されて「じゃあこれできましたよ」と言えなくなってしまうアンケートではないのかなというのがちょっと気になったというところはあります。絶対数がかなり少ないので、そこについて区としてはどう考えていたのかなというところが気になっていたところですよ。障がい者団体に関していうと、1,002も渡して72しか来ていないですよ。16歳以上は1,001で721とかなのですけれども、かなり。それで、ウェブ状況に関しては、1,002行って14。16歳以上は1,001渡して323なので、ここの圧倒的な差みたいなところ。まあ、障がい者の数自体が少ないので、そもそもそれでも十分なかもしれないという考え方もあるのかなと思ったりはするのですが、ただ、今後パラスポーツに力を入れてきますという話があったときに、そのアンケート結果を基にした計画というのは立てづらくなってしまいう数なのかなと感じたので、後でご回答いただければうれしいかなと思いますけれども。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

承知しました。まず、分析のところで言いますと、申し訳ありません、今回ご指摘のとおり、一般区民の3,000人に配ったアンケートと一緒にたの分析になってしまっていますので、そこは分けて出させていただければと思います。前回も分けたデータをつくってはいるのですが、今回はまとめたデータでお示ししてしまいましたので、ここは分けて出させていただきたいというのが一つと、そのアンケートの取得数については、これもご指摘のとおりなのですけれども、1点補足させていただきますと、資料1の3番のところでは障がい者個人が0件だったというのが実はあるのです。これは何かといいますと、従来、区で取る障がい者の方向けのアンケートはどうしても団体の方経由、団体にお渡しをしてそこから回収ということでやらせていただいていたのですが、最近は団体に加入していない方もいるので、それだと偏らないかというご意見があつて、障がい者施設にQRコードつきのものを置かせていただいて、それで個人で回答いただけるような仕組みを取ったのですが、残念ながらそこから1件も回答が入らなかったという状

況になります。

ですので、そこはちょっと残念な結果だったのですが、この団体経由の方のところから100件弱の回答を頂きましたので、これをもって分析をさせていただければというところになります。

#### ■木村委員

障がいをお持ちの方の、私とかも結構イベントみたいなことをさせていただいたりとか、やはり渋いのですよ。区のこれと一緒に感じて、回答を頂けないこととか、そもそもこういうものに自分から積極的に行こうという、多分施設も含めてなのでしょうけれども、なかなかなくて、ちょっと「ください」では障がいをお持ちの方からの回答は得られないのではないかと考えていて、ほかのやり方は多分難しいのだと思うのですが、結構、前も委員会でお話がありましたけれども、直接聞きに行くとかインタビュー形式でやるとかいうレベルまでいかないと、障がいをお持ちの方からの本当の意見は多分聞き出せないのではないかとするのは個人的に思ったので、この質問も含めてさせていただいたのと、僕からのご提案みたいな形で話をさせていただきました。

#### ■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

ありがとうございます。

#### ■木村委員

もう一つが、「パークで筋トレ」というところなのですけれども、多分今40施設以上やれるようになったかと思うのですが、多分自分の近くの自宅周辺で基本的にされている方が多いので、その数を増やすことが一つ重要になってくるのかなと考えていて、多分「パークで筋トレ」とかパークで何か体を動かすことだけで一つスポーツという枠組みになるのではないかなとされているのですが、もしかしたら、この調査結果を見て思ったのは、「仕事・学業・家事・育児・介護などで時間が取れなかった」と書いていらっしゃるんですね。では、この方たちが本当にスポーツを全くやっていたのかというと、結構「はてな」なのではないかなと実は思っていて、何をもって、その人の価値観の話なのなのですが、スポーツというものがあまりにも高尚なものになりすぎてしまっていて、結構きちんと1時間体を動かさないとスポーツとは言えないから体を動かしてはいませんというふうになっているのではないかとするのは思っていて、さっき溝口さんがおっしゃっていたように、10分でも体を動かせば、変な話、「運動しているよ」と言ってもいいのではないかと正直言うと思っているので、それで要するに健康寿命が延びるとか、そういうところに関わるのが多分これのメインターゲットになってくるのかなと思うので。そういう観点からいくと、ここのスポーツに対する意識の価値の変換というか、そういうことをしていかないと、もしかしたらそもそもこれ以上増えないのではないかとするのは、ほかの区とかでもちょっと思っていることだったりします。

なので、この自宅周辺の人たちに関しては、ちょっと動いたことでスポーツと思ってもらえる人が増えてきたことが一つ価値だと思っはいるのですね。「パークで筋トレ」とか。でも多分まだ思っている人は少ない。そのギャップを埋めていかなければいけないのかなと。スポーツの個人個人の受け取り方、人それぞれでどこまでをやったらスポーツというのが違うのではないかなと、海外では結構スポーツをフランクな形でやれているのですが、やはり日本でスポーツというと結構トップスポーツをイメージしてしまう。きちんと野球をやっているとか、きちんとサッカーをやっているという人がスポーツをやっている人だよというイメージ

なので。そうではなくて、ちょっと 10 分運動してもスポーツをやっている、健康寿命も延びて、そういうことを楽しめるよねというところのスポーツの価値を広めていく、普及的観点のスポーツを広めていくという足立区の施策がもっと、それが「パークで筋トレ」が一つはまったのかなというので、ある意味、それが今回の実施率の向上につながったのかなと僕は見ている、読書から取ったとか、そういうのは全然、正直言って全くない。勝っている・負けているとかではないというのは僕の中で思っているところだと思いますというのが意見としてあるので、そこをもうちょっと詰めていく必要があるのだろうなど。そこはもうちょっと計画に組み込んでもらえるといいなというふうに思っていますというところが意見です。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

ありがとうございます。実施率が上がったというのは、おっしゃるとおり、必ずしもやった人が本当に増えたかということもありますし、その捉え方というのは大きくあると思います。

■木村委員

大いにあるのですよ。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

実はスポーツ振興課のほうでもそこを少し、スポーツの概念を変えようということで、例えばアンケートの聞き方を、「スポーツとはこういう定義なんですよ」と工夫してきたりしたところもありますので、そこはまさにおっしゃるとおりだなと思います。

■溝口副会長

読書の定義を変えればいいのですよね。だから、さっき言ったネットで見るとか、鑑賞もそうすると増えるという。皆さんに言いたいね。定義を変えたらいいと。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

読書部会の原田先生がよくおっしゃるのは、文字を読む量というのは減っていないで、むしろ増えていると。多分ネットとかで読む人が増えているだけで、本を読んだりネットで読んだり、全部を総合したら昔よりはるかに文字を読んでいるというふうにおっしゃっていて。

■木村委員

情報量がめちゃくちゃ多いですからね。

■溝口副会長

多い。

■木村委員

だから多分ネット記事を読んでいる人でいうと、ほぼほぼ全員読んでいるのではないかと。それを「読書」と呼んでもいいのではないかと思うぐらいなので、識字率だって絶対にそういう意味では多いでしょうし、逆に「書き」ができなくなっている人は多いかもしれないですけどもね。

■溝口副会長

そうですね。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

ありがとうございます。

■中村委員

すみません、この集約の表現の仕方で、「スポーツ実施率」と書いてあるのですよ。そうではなくて、こちらと同じように「運動・スポーツ」としていただいて、アンケートのほうも運動・

スポーツとはどういうことですかというのをもう少し詳細に書いてもらったほうがいいと思うのですよね。ウォーキングもきちんとした運動ですよ。「パークで筋トレ」はまさにパークで筋トレなのでいいですけども、階段の上り下りを個人的にやっていますよとか、そういうものもちょこっと入れてくれば良いと思うのですよね。それで、このまとめ方も「スポーツの実施状況」になってしまっているの、見たほうは「スポーツはいろいろ見方がありますよね。評価の仕方がありますよね」となってしまいますよね。だから、そのところを具体的にもう少し分かりやすくアンケート調査のときにも入れてもらえると、もうちょっとよかったかなと。違った評価の仕方ができるかもしれない。

#### ■木村委員

そこに補足して思うのが、芸術とかで、例えば踊られている方とかダンスをされている方で、ダンスと言ってしまうけれども、それもスポーツだったりするじゃないですか。演劇をされている方だって体を動かして人に表現して伝えているわけじゃないですか。ある意味それもスポーツという見方もできるわけじゃないですか。なので、やはり結構定義が難しいのですよね。何か表現者がスポーツというと、それはスポーツではない、じゃあ、文化だというくりなのか。そこら辺が常々こういうアンケートを見たときに思うのが、そこで本当にマルなのかバツなのか、「でも、やっていないといえばやっていないから、バツか」みたいなノリなのですよね、多分。だから、そこら辺ももうちょっと分かりやすく、やはり取り方はかなり大事になってくるのだろうなと思いますね。だから、実はここまで低くないと思うのですよ。

#### ■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

私がかつてこの担当をやっていたときにも、東京都のほうは 50%とかと出てきたときがあつて、見たらアンケートに「運動・スポーツはこれです」と物すごい例示が書いてあつて、何かに引っかかるような問い方をしているのですよ。そう考えると、そういうところも多いのではないかなと思って。

#### ■木村委員

もちろん何を意図として取るかにもよるのですけれども。

#### ■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

あとは、アンケートでそう聞いた上で、実際にそういう発信をしていくのも、足立区として「運動・スポーツとはこういうことですよ」という、今 3 分野共通で情報発信が課題だというお話がありましたけれども、そういったところの発信も、例えばみんなで共通でやっていくとか、読書もこんなふうに広げましたとか、そういうのもありなのかなと皆さんのご意見を伺っていて思いました。

お時間が残り 10 分弱ほどですが、いかがでしょうか。

一応、今、論点として、アンケート関係かなと思って拾わせていただいたのが青で、それ以外が緑で、施策評価シートからが黄色となっていて、この体系図に関してもしご意見があれば赤で思ったのですけれども、やはりなかなかこのあたりは抽象的な議論で、皆さんもなかなかご意見が難しいところになりますでしょうか。計画の方向性として、例えばここを——もちろん別にここを絶対に出していただかなければいけないというわけではありませんので、ちょっと抽象的な話ですので、もっと具体的に、例えば……。

#### ■中村委員

では 1 つ。この計画（案）についての「各分野の課題」と「施策の柱」、これに沿って具体的

な事業が展開されていくわけですよ。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

おっしゃるとおりです。

■中村委員

それが本当にこの課題と結びついていますかというのを検証していただきたい。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

分かりました。

■中村委員

あと、その事業が継続するに当たって、どう評価するのかという。個別の事業の評価をやっていますけれども、本当にそれで効果があったか・なかったかというのを検証していただきたい。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

そこは部会でも中村委員と伊藤委員からもご指摘がありましたように、ではこの事業をやった本当に改善したのか、相関関係と因果関係があるのかというお話があったかと思しますので、スポーツはそこが課題で、ほかの分野もそうだと思いますけれども、そうなってくると、行く行くは評価だとか指標をどう設定するかというお話になってくると思しますので、そこをまず事務局案として作り込んで、ここはきちんとリンクしているかというのは皆さんの厳しい目でチェックしていただければなと思います。

■伊藤委員

「週に1日以上スポーツを実施している」は4.5ポイント増えているじゃないですか。行政はこれをどう捉えているのでしょうか。何が原因で4.5ポイント増加しているという考え方なのか。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

正直まだ分析ができていないのですけれども、一つは、少し「運動・スポーツ」という言葉を使うようにしたですとか、定義を広めたというところは少なからず影響しているのではないかと思います。あと、スポーツも今は身近なスポーツということで、結構いろいろ身近にできる施策をどんどん増やしてきているところもありますので、そういったところで少し裾野が広がったのではないかと。

■伊藤委員

さっき委員がおっしゃっていたことは僕も同じことを思っていたのですけれども、家の周りを10分～15分歩いたら運動・スポーツでいいのですか。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

運動・スポーツには、足立区の場合は時間で定義していましたっけ。

■事務局（スポーツ振興課振興係長）

運動と定義していますね。介護予防と同じで。

■伊藤委員

家の周りを10分歩いたら。

■事務局（スポーツ振興課振興係長）

施設に行くまでも運動ですから。

■伊藤委員

ただ、それを結局アンケートの人たちが理解しているか・していないかということが大きいので

ではないかなと思います。

あと、もう 1 点だけ。この間も言ったのですけれども、このアンケートを見ていて、ちょっとよく分からないのが、いつもよく分からないのですけれども、数字がどこにリンクしているのかが全然分からなくて、例えば 3 ページの「実施したかったが、できなかった」層が 54.6%という、この数字を探している、「実施したかったが、できなかった」の網かけのところで 54.6 と出てくるじゃないですか。これはこの左側の 207 人が 100%ということでもいいのですよね。207 を 100%に取って、113 だから 54.6%が。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

おっしゃるとおりです。

■伊藤委員

そうですね。けれども、この上の 207 という数字は、113 から一番右の無回答の 14 までを足して 207 なのですか。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

これは単一回答ではなくて……。

■伊藤委員

これを今足したら 298 あるのですよ。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

複数選択肢になっているかと思います。

■伊藤委員

だから、そういうのがよく分からない。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

申し訳ございません。

■伊藤委員

なので、結局この 207、245 というのが、このデータはアンケートを見てもどこからも探せない。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

見つらくて申し訳ありません。

■伊藤委員

いつも言っていますけれども。だから、多分つくっている人たちは今言ったように複数回答だからと言われてしまっても、我々がこのデータというかアンケートを見たときに、さっき先生もおっしゃっていましたが、見る側の人の気持ちをもう少し考えていただかないと、多分探すのに一生懸命になってしまって、数字は何がどうなっているのかというのが読み取れないというのが。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

ご指摘のとおりかと思います。実際に報告書を仕上げるときには、まず回答者数が何人かという  $n$  というのが、例えば  $n$  が 207 人で、複数回答で、例えば回答数を足しても一致しませんという注釈とかが必要という、そういう理解でよろしいでしょうか。

■伊藤委員

そうそう。そういうのがないと、つくっている人たちは理解しているでしょうけれども、我々が見ていると、何でこの数字がこういう数字になっているのだろうというのが。このスポーツを実施している・していないが左側にあって、これが今回のアンケートで、右側の真ん中が前回の

令和3年と平成31年なわけですよ。だったらこれも横につけてくれたほうが見やすいといえ  
見やすいのかなというか。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

おっしゃるとおりです。

■伊藤委員

ずっと探していると、この数字がどこから来ている、何の数字を言っているのかが分  
りにくいかなど。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

分かりやすい資料を心がけます。

■伊藤委員

多分、各委員の先生方が見ている、この数字がここから来ているのだなというの  
が分かりやすいほうが、余計なことを考える手間が減るのかなと。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

ありがとうございます。

■伊藤委員

あと、スポーツ推進計画で1点だけ。「各分野の課題」の真ん中に「過去の経験者」とい  
う言葉があるのですが、これは過去の経験者という言葉が適切なのかなということ  
で、全体的な総合計画をつくっている中で、右側もそうですけれども、「過去の経験を」とい  
うのがあるのですが、過去の経験をというのとは何となく分かるのですが、過去の経験者  
が」という言葉が何か総合計画の中の推進計画の中で適切なのかなというのが私個人  
としては少し思ったというか。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

例えばですけれども、「かつてスポーツに親しんでいた人が」とか。

■伊藤委員

これは結局、そのスポーツをした人に戻ってきてほしいという考え方ということな  
のですか。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

おっしゃるとおりです。今はやらなくなってしまったけれども、例えばライフステージ  
の変化ですとか、年齢が上がったとか、そういったことで離れてしまった人にも戻  
ってきてほしいということではないですか。

■事務局（スポーツ振興課振興係長）

そうです。

■伊藤委員

そうしたら、過去の経験者というか、「ライフステージの変化を超えて」という言葉  
が後ろについているのであれば、例えば老若男女じゃないですけれども、全部の皆  
さんがライフステージの変化を超えて、昔何かをやっていたか知らないですけれど  
も、それこそさっき言ったウォーキングをしていただけかもしれないじゃないです  
か。「過去の経験者」と言われると途端にスポーツのほうにぐぐっと寄ってしま  
うというか、何かスポーツをしていなければいけなかったのかなみたいな。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

先ほどの運動かスポーツかというスポーツ寄りになってしまうということですね。

■伊藤委員

そうそう。それが「施策の柱」のほうで「過去の経験」という言葉が入っているのであれば、ここだと急にステージが上がってしまう気がするというか、何かスポーツをしていなければいけなかったのかなど。

■事務局（生涯学習支援課文化・読書・スポーツ連携推進担当）

すみません、事務局です。恐れ入りますが、3時35分となりましたので、これから3番の「まとめ・共有」につきまして、岩永会長にご進行をお願いしたいと思います。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

申し訳ありません、各分野、あと2〜3分でまとめの時間を改めて取らせていただきますので、あと3分後ぐらいにまとめをさせていただければと思います。

田中会長、いかがですか。なかなか触れられなくて申し訳ありません。

■田中委員

いやいや、大丈夫です。

やはりスポーツというよりは、今は健康志向の人がすごく多い中で、何か動こうというか、そういう意識が全員高いじゃないですか。障がいを持っている方もそうだし、私たちもそうだし、動かなければいけないという、それがさっき言っていたスポーツという大枠に——結局スポーツは健康で楽しくてというところじゃないですか。自分のモチベーションを持っていったり。だからやはり、先ほどから言っているように、例えば1駅を歩いてみたりとか、あと自転車で通勤してみたりとか、体を自分で動かして楽しんで、元気でいようという、何かもうちょっとレベルが低い意識の人がたくさん増えているのかなという気はします。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

そのあたりが先ほどから出ている、スポーツというものの考え方とか捉え方というところをもう少し広くというか寛容にやっていくと。

■田中委員

障がい者スポーツについては、やはり知ることがすごく大事で、昨年デフのイベントが足立区であって、いろいろな選手が来て、結構皆さんがたくさん参加してくれて、やはりそういう大きなイベントを打つことでみんなが関心を持って行って、小さい取組はなかなか広がるというのは難しいのかなという感じはしています。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

ありがとうございます。

■中村委員

すみません、最後に、この2つ目の「目指す将来の姿」が「施策の柱」に飛んでいく、この真ん中を踏まえて飛んでいくのがよくつながらない。こことここが。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

課題を挟んでごまかされてしまっているけれども、「目指す将来の姿」と「柱」がリンクしていないのではないかと。

■中村委員

うん。何か、これを読んでこちらがすぐ分かるかという、なかなか。いきなり指導者に行ってしまう。個々人が心豊かに日々過ごしていますということが将来かもしれないのですけれども、それが柱に行くと、指導者というか支える側になってしまうという。だから、

真ん中にもうちょっと何かがあってこちらに行くのはいいですけども、あまりつながりがないかなという印象を受けるのですけれども。もう少し工夫されたほうがいいかなと。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

ありがとうございます。

そうしますと、少しまとめの内容を整理させていただきますと、体系図については、つながりをもうちょっとしっかりというところと、ここだけではないですけども、表現ですとか分かりやすいもの、アンケートにしてもこの体系図にしても、読んだ人がすぐ分かるような形でということでご指摘いただきました。ありがとうございます。

あと、課題と事業がつながっているかというご意見がありましたけれども、これについては評価の仕組みも含めて検討させていただければと思います。

具体的な事業については、「パークで筋トレ」に関連して「脳活ラボ」をやったけれども、もうちょっと深掘りして、数とかを少し拾ったほうがいいというご意見だったかと思います。

一番多く頂いたのは、アンケートに関連して、木村委員から、障がい者の方のところの深掘りということで、これの分析は個別に出ささせていただければと思います。

あと、そこから派生して行って、結局運動・スポーツとは何だろうというのは今の時間の中では一番大きかったところかと思いますので、例えばこういったアンケートの中での定義だとか、実際にやりましょと広げていく中でも発信するときに大事なかなと思ったところです。

その他のご意見で出たところで言いますと、中村委員から、全体的にマップをつくってビジュアル化して、どこからどうアクセスしているか、何人ぐらい来ているかという資料があると分かりやすいというご意見があったかと思います。

そして、ここが一番面白いかなと思ったのが、決して文化・読書・スポーツは取り合いではない、スポーツの独り勝ちじゃないよというところは言わせていただこうかなと思います。もうちょっと柔軟に考えを広げて、スポーツみたいに広げれば読書も全部上がってくるのではないかなというご意見だったかなと思います。

■中村委員

関連事業と連携して協創していただきたい。

■伊藤委員

小中学生はあんなに本を読んでいるのですかね。70%ぐらいの。みんな。

■溝口副会長

みんな教科書？

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

一応あれは「学校の授業以外で」という注釈は入れているのですけれども。

■伊藤委員

うちの子は全然読んでいない。みんなこんなに多いのかなと。

■木村委員

でも、漫画とかは読んでいらっしゃるんじゃないですか。

■伊藤委員

でも、漫画は別に入っていますよ。読書と漫画は別だった。

■木村委員

それは別なのですね。それだと確かに分からないですね。

■溝口副会長

本読みの練習をいっぱいしている。

■中村委員

お父さんに隠れて読んでいるのですかね。

■伊藤委員

それだったらうれしいですけどね。

■溝口副会長

あっという間でしたね。

## (2) まとめ・共有

■岩永会長

よろしいでしょうか。私は形式的な進行役で、本当の進行役は大久保さんなので、大久保さんの言うなりなのですけれども、どうしたらいいですかね。そろそろいいですか。

大久保さん、どういう順序で？

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

そうしましたら、前は文化、読書、スポーツの順番でやらせていただきましたので、逆回しで、スポーツ、読書、文化でやらせていただければと思います。

■岩永会長

どちらにしても、うちは2番目ですね。分かりました。

では、スポーツのほうから。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

では、スポーツは大久保のほうからご説明させていただきます。

先に申し上げますと、一番議論が盛り上がったのは、運動・スポーツの定義というところを、改めて何なのだろうというのが皆さんから幅広くご意見が出たところです。そこを狭く解釈しないで「これも運動・スポーツだよ」と広げていくのが、一つ運動・スポーツを広げていくきっかけというか、大事なところなのではないかと。今回、スポーツの実施率が上がったところも、そういったところが影響しているのではないかとのご意見を頂いたところになります。

色分けさせていただいてはいますが、ご覧いただいて分かるとおり水色が一番多く出ている、アンケートに関するご意見だったのですけれども、これについては、内容としては障がい者の方のアンケートの数が今回少なかったということと、一般の方のアンケートと一緒に分析になってしまっていて傾向が分かりづらいと。これだとせっかくこれからパラスポーツを推進していこうというところで、これで本当にアンケートを取ったと言えるのかというご意見もありましたので、ここについては少し分けて分析を出すようなことも事務局のほうで考えさせていただきたいなと思います。

それと、このピンクのところは先ほどの体系図のところだったのですが、きちんと目指す姿、課題、柱、そういったものが本当にちゃんとつながっているかというのはよく事務局で検証してほしい、一見つながっていないように見えるものもあるというご意見を頂いたのと、せっかくこれから発信していくものになるので、もっと表現を分かりやすく、一部分かりづらい表現もあるので、言葉はもう少しちゃんと選んでほしいというご意見があったところです。

黄色が具体的な事業のところですが、スポーツのほうでいろいろと力を入れて進めています「パークで筋トレ」のあたりの事業のところ、部会でのご意見を踏まえて少しブラッシュアップしたところがあるのですけれども、もう少し掘り下げてやってほしいと。具体的には、介護予防の事業で「脳活ラボ」という取組との連携があるのですけれども、そこをもう少し掘り下げてほしいというご意見があったところです。

あと、先ほどアンケートのところでは障がい者の方の分析というお話がありましたけれども、冒頭に申し上げましたように、運動・スポーツをどう定義するかというのがアンケートの中でも大事ですし、これから普及していく中でも、例えば本当に家の周りを10分15分歩くのも運動・スポーツかといったときに、足立区ではそれも運動・スポーツですというふうに定義していますので、ちゃんとそれを発信して、「じゃあこれも運動・スポーツなんだ」と認識してやっていただくのが大事なのではないかなというところになります。

最後になりますけれども、「その他」のところですが、運動・スポーツは、ただ単にやるということと、やる場所まで行くアクセスが大事だということが、これはずっと計画をつくったときから議論に出ていたのですけれども、それが分かるように、区内の拠点はこういうところがあるけれども、そこに誰がどのようにアクセスしているかという一覧のマップがあると分析できるのではないかというご意見がありました。

次が最後になります。先ほどから3分野が取り合いというお話がありましたけれども、取り合いではないぞと。スポーツの独り勝ちではないぞというご意見がありました。何かスポーツだけ上がっていて、スポーツが悪者扱いされてしまっていたのですけれども、そうではなくて、やはり運動・スポーツはこういう定義を広げて若干上昇してきたということもあるかもしれないので、例えば読書であれば、本を読むだけではなくてネットの記事を読むのも読書にしてしまえばいいじゃん。そうすればみんなで上がっていくよと。なので、連携して上げていこうというのがスポーツからの発信になります。

以上です。（拍手）

#### ■事務局（図書館サービスデザイン担当課長）

それでは、読書のほうになります。

読書のほうは、私の付箋の使い方があれだったのかもしれないのですけれども、赤と青と緑で出てきまして、黄色がないような状況になります。一番たくさんあったのは、そもそも、先ほど岩永先生のお話にもありましたが、柱の2つ目のところ、居心地のよい魅力的な図書館というのはどんな図書館かというのを具体的に考えるのが大事だよというお話があったので、そこに絡まってピンクのところのいろいろ出てきているという状況です。

まず1つ出たのは、前回もご意見がありましたけれども、「自己肯定感を高める」みたいな言葉が読書だけ指標のところに入ってきていないという話があり、読書は自己肯定感を高めるというよりは、適度な自己否定感を与えてくれるのが読書の魅力、いいところなので、それを前向きな言葉で入れていきたいねという話になって、では、前向きな言葉という意味では「自分を見つめ直す」みたいな表現を使って柱の2番目のところに入れていったらいいのではないかという話がありました。

また、具体的に居心地のいい図書館というのはどういうところだろうという話をしたときに、今は静かで堅苦しいイメージがある。そういう場所をもっと本について語り合う場にしていきたいねとか、本を読みに行く場所から人と出会う場所が変わっていくというのが魅力という考え方

をしたかどうかという話がありました。それに絡まって、アンケートのほうでは、女性のスポーツの利用者が大変多いというふうに出てきている。一方で、図書館を利用しているシニアはほとんど男性だということで、女性はお友達と一緒にスポーツをわいわい楽しくやっている。男性のシニアは独りで図書館に来て本や新聞を読んでいるというのがアンケートの数字から見えてきた。だけれども、これから本を読みに行く場所から人と出会う場所へという図書館を目指していこうとしたら、ではその新聞を読んでいる独りのおじさんが来なくなったらそれでいいのかということ、そうではないよねという話から、では居心地のいい図書館というのはどうなのかということと、いくと、おしゃべりをしたいグループの人も、独りでひっそりと新聞を読みたい人も、みんな受け止めるいろいろなタイプの閲覧席があると、それが居心地がよくていいのではないかという話が出てきました。

それから、相乗り企画の話も出ました。伝統・文化の話というところは、文化の部分だけではなくて、伝統・文化に関しての本を読むみたいなどころもあるので、そのあたりは読書と文化の相乗り企画にすごく入り口としていいのではないかという話がありました。

もう 1 つ相乗り企画です。今アンケートのほうでは地域の文化行事の部分のポイントが挙がってきている。これはお祭りとかそういったものに若い世代もいろいろ関心を持って参加していることだろうということなので、このお祭りという切り口、お祭りについての本は図書館にもあるので、そういうお祭りについても 3 分野で一緒にやっていける。それで、祭りはもう体を動かしているからスポーツみたいなものだろうということなので、祭りという切り口だったらスポーツも読書も全部 3 分野横断できるような企画になるのではないかというお話でした。

あと、具体的な取組として、プッシュ型のお勧めをしてほしいとか、「はじめてえほん」で本を渡すときにお母さんにもっとアプローチをしたらいいのではないかと、スモールステップで図書館に誘導していけるといいのではないかと、そういうお声がありました。

すみません、長くなってしまいました。（拍手）

#### ■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

では、最後に文化でございます。

文化のほうのメインテーマとしては、体験機会を増やすというところですよ。まず、この青い部分がアンケートですけれども、文化のアンケートを見ますと、3 年前はコロナ禍もあったことありますけれども、やはり徐々に数値は伸びている。それはなぜだろうというところを分析していくと、子どもたちのアンケートの結果が良くなっているのではないかと。それは何かというと、やはり小学 5 年生、今足立区民全員小学 5 年生に『劇団四季』を見ていただくという、僕も行きましたがけれども、すごくみんな目をキラキラさせながら、本物に触れるというところがあったということ。

そこに加えて、今までは情報提供とか知る機会を、たくさん知ってもらおうというところもありましたけれども、情報提供というのはどう頑張っても、例えば 50%とか、上限がある。それであれば、提供する内容の質にもう少しこだわってやっていったほうがいいのではないかという話をどんどん掘り下げていったというところがこの辺になります。そのためには、例えば体験の機会を増やすとか、気づく、気軽に触れられる機会をたくさん増やす、それに加えてやはり質という意味では、本物を見る、感動を与えるというところを、区としてその姿勢を示していかなければいけないのではないかと。特に文化は、目に見えるものがほぼないので、区がどうやって進めていきたいかということをしつかりとメッセージとして示すことが今回求められているのではない

かというところが強く意見が出ました。その中には、足立区の独自性のもので、劇団四季もそうですけれども、何か活動の補助であるとか、そういった強いメッセージ性のある施策を提供していったほうがいいのではないかとということになりました。

あと、最後にトータルで、3分野連携の中での意見としては、やはり本物に触れて感動を与える、肌で感じるものを、この間のミラノ・コルティナオリンピックもそうですし、本を読んで感動するものというのは非常に多い。そうすると、3分野のキーワードは「感動」なのではないかと。感動を区民に与えていって、そこから伝播して、みんなが感動を共有できる中で、3分野みんなが高め合っていくということが非常に大事だねと。「やりたいことが叶うまち 足立」の成功のためには、寿命が今は100年時代と言われてはいますが、ただただ100年を生きるのではなく、人生が豊かだからこそ長生きしたいという、そういう方向性のメッセージを足立区から伝えていって、区民が心豊かに、長く自分の人生を楽しみたい、楽しいから長く生きる、いろいろ方向性はあると思うのですけれども、豊かだから長生きしたいというところを足立区のメッセージとして出していけるといいかなということが議論のテーマでございました。

私のほうは以上になります。ありがとうございます。（拍手）

#### ■岩永会長

どうもありがとうございました。さすが足立区の中で鍛えられているだけあって、お三方とも、とてもまとめ方が上手だなと。大学の先生はこういうのが本当に下手なのですよね。自分の言いたいことだけをばんばん言ってしまうという。とても感動しました。ありがとうございました。

大分時間が押していますけれども、グループごとの意見を今発表していただきましたが、全体で自由に議論を、あまり時間も取れないのですけれども、議論していただく時間としたいと思います。いかがでしょうか。ほかのところの話もお聞きになって、どうでしょうか。

それぞれテーマが違うということもありまして、私はずっと今、読書のほうでお話を伺ったり、時々茶々を入れたりしていたのですけれども、話が全て読書というよりは図書館になっているのですね。だから、ただ本を読ませればいいのかというと、そうではなくて、図書館のようなところで、その図書館をどうやって本を読みたくなるような場所にするかとか、あるいは、それ以上に住民同士のコミュニケーションが活発になるような場所にするかとか、そういう一段階フェーズを上げたような議論になっているなど。ただ単に本を読んでもらうという話ではなくなっているなという気がしました。これはスポーツのほうもそうですし、文化のほうもそうですけれども、ただただそのものずばりをほかの2つに負けないように伸ばしていくということではないなというのを、さっき私もつまらない競争論を言ってしまいましたが、そういう感じで成熟してきたのではないかなと思いました。

いかがでしょうか。そんなまとめで。まとめてしまいましたが。

ただ、大久保さんからも最初にありましたけれども、今回何かを決めるというわけではなくて、方向性に関していろいろ言っていて、「こんな方向でこれから考えていけばいいのかな」というのがそれぞれの委員の方々の心の中に少しでも、何となく議論の筋みたいなのが、これから何を議論していけばいいかということが分かってくるような会だったのではないかなと思いますけれども。

ただ、ちょっと問題があるのは、私だけかもしれないけれども、間遠にしか議論しないので、前の議論を忘れてしまったりするのですね。これは私だけですかね。ほかの部会の方たちはちゃんと継続的にやられているのかもしれないのですけれども、話をしながら30分ぐらいたたないと、

「ああ、そうだったな」と思い出せないという。年のせいかもしれませんが。

まあ、そういう経験をさせてもらって、とても楽しい会だったと思います。

これから先をどういう方向で進めるかということについては、これから大久保さんに最後にまともていただきたいと思いますけれども、本日はアンケート調査の結果——ちなみに私がちょっと気になっていることが1つだけあって、「アンケート」というのはフランス語で「調査」ということなのですね。「enquête」という。「アンケート調査」というのも変な言い方だなという気がいつもしてしまっていて。ただ、自分なりに納得しているのは、「アンケート式の調査」という意味で「アンケート調査」と言っているのかなということに納得しているのですけれども、これから先、「アンケート調査」という言葉を使うか使わないかというのは少し考えていきたいと思います。

アンケート調査の結果の共有や新3分野計画の策定における確認、また前回同様、グループ単位での意見交換などの議題が盛りだくさんであったということで、時間も押してしまいましたけれども、委員の皆様活発な議論のおかげで非常に濃く深い議論になったのではないかなと思います。本日は誠にありがとうございました。

それでは、最後に事務局にお渡ししますので、事務連絡をお願いいたします。

## 6 今後の予定

### ■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

皆様、時間が押してしましまして申し訳ございません。短い時間ではありましたが、活発なご議論をいただきまして誠にありがとうございました。

会長からもお話がありましたけれども、今後の進め方というところで言いますと、次回、4月～5月に設定させていただいている会議では、今日はざっくりしたもので皆様もなかなかご意見を出しづらい部分もあったかと思うのですが、もう少し具体的な事業と関連づけたものをお示しして、より具体的にご議論いただけるような形で進めてまいりたいと思います。ひとまず今回お示したものを踏まえて少し書き進めていきまして、またご提示させていただければと思います。

なお、日程につきましてはこれから調整させていただきまして、決まり次第速やかに通知させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

2点追加でご連絡させていただきます。

いつものことですが、本日の会議録につきましては、事務局にて案を作成しまして皆様にご確認の依頼をさせていただきますので、皆様のご確認が完了次第、ホームページにアップさせていただきます。

最後に2点目ですけれども、お車でお越しの方には駐車券をご用意しておりますので、お声がけいただければと思います。

事務局からのご説明は以上となります。

今、会長からもお話がありましたが、なかなか議論が、間がたってしまいますと分かりづらいというご意見がありましたので、また次回議論するときには今日のご議論を整理した上で、なるべく議論が継続できるような形で進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

## 閉 会

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

それでは、本日は誠にありがとうございました。

■岩永会長

どうもありがとうございました。

一言言っておくけれども、もっとたくさんやってくれということではないのでね。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

分かりました。そうですね、2か月～3か月に一度ぐらいのペースで計画・策定まで進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。